

エネルギー・環境の選択肢に関する福島県民の意見を聴く会

■日時

平成24年8月1日(水)14:30～19:00

■場所

福島テルサ FTホール

■参加者数

一般参加者:161名 報道関係者:47社130名

■政府側出席者

細野 豪志 環境大臣/原子力発電所事故収束・再発防止担当大臣/内閣府特命担当大臣(原子力行政)

(内閣官房)

清水 康弘 内閣審議官、日下部 聡 内閣審議官、下村 健一 内閣審議官
(経済産業省)

高原 一郎 資源エネルギー庁長官、後藤 収 経済産業省大臣官房審議官
山田 尚義 東北経済産業局長

(環境省)

鈴木 正規 地球環境局長、鳥居 敏男 東北地方環境事務所長

(内閣府)

倉持 隆雄 内閣府政策統括官

■当日の模様

※一般参加者のお名前については、英文字に置き換えさせていただきました。

<開会>

◎司会者(下村審議官)

大変長らくお待たせいたしました。ただいまから、エネルギー・環境の選択肢に関する福島県民の意見を聴く会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、そして大変お暑い中をお集まりいただきまして本当にありがとうございます。きょうは147名の方にご来場いただいております。そして報道関係は45社125人の方がいらっしやいます。参加を

申し込まれた方の中で意見表明を希望された方から、無作為抽出で 30 名の方にご意見の表明をいただきます。今、壇上には 15 人の方にお並びいただいておりますが、後ほど前半後半で分けさせていただいて、後半でもう 15 人の方にご登壇いただきます。

今、政府はこの「エネルギー・環境会議」という場で、震災と、その後の東電福島原発事故を受けて、エネルギー・環境戦略の見直しということを行っております。6 月 29 日のこの会議におきまして、2030 年のエネルギー・環境に関する三つの選択肢というものを取りまとめました。そして、以来、全国各地でのご意見を何う会とか、さまざまな方法で今、国民の皆さんからご議論をいただいているという段階です。その中で、本日のこの場、福島県民の意見を聴く会という場を設けました。

ここで、まずその流れの中でのきょうのスケジュールをご案内いたします。まず初めに、エネルギー・環境会議の副議長を務めます細野豪志環境大臣からあいさつをいたします。次いで、政府担当者から、このエネルギー・環境に関する選択肢の概要について、ご説明をいたします。その後、抽選で決まりました 30 人の意見表明者の皆さんから、ご意見を表明していただきます。この時間は休憩をはさんで、前半と後半に分けさせていただきます。15 人ずつの方にお話を伺い、前半、後半のそれぞれの終わりの部分で、またそれぞれ、この中同士で、今の意見を聴いてこう思うがどうだろうかとか、ちょっとここを補いたいといったかたちでキャッチボールを行えればと思っております。そういったことが全て終わりましたから、皆さまにまたアンケートなどをお書きいただきまして、それも全て参考にさせていただきます。エネルギー・環境の大きな方向を定める、革新的エネルギー・環境戦略、これを政府として決定するという段取りになっております。

それでは、まず開会にあたりまして、細野環境大臣からごあいさつ申し上げます。大臣、よろしく願いいたします。

<大臣による冒頭の挨拶>

◎細野大臣

本日は大変皆さんお忙しい中、意見聴取会にお運びをいただきまして心より感謝を申し上げます。今日はウィークデーでございますので、それぞれ様々なご都合をですね、繰り合わせてお集まりをいただいたものというふうに思います。特に発表者の皆さんには事前のご準備も含めて、本当に今日こうして、それぞれの皆さんのご見解を表明をしていただくということで、重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございます。はじめに、福島皆さんにはですね、去年の3月11日の東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、大変なご迷惑、ご負担、そして依然として不自由な生活をですね、過ごしておられる方がたくさんいらっしゃると思います。そうしたすべての事について、政府を代表してまず心よりお詫びを申し上げたいというふうに思います。本当に申し訳ございませんでした。依然として、政府の対応が十分できていない中で、皆さんに大変不自由をおかけをしている状況でございますので、その問題についてはですね、できる限り福島県民の皆さまお一人お

一人の声にこれからも耳を傾かせていただいて、まさに皆さんの生活が少しでもですね、元に戻るように、さらにはいい方向にいくように努力をしてみたいと、そのように考えております。大変ご不自由をおかけいたしますけれども、ぜひ皆さん、お体に気を付けてお過ごしをいただきたいというふうに思います。さて本日はですね、エネルギー・環境についての意見を皆さんから聞かせいただきます。全国でこの意見聴取会をやっております。原発からですね、グリーンへという大きな方向性のもとで、3つの選択肢を政府では皆さんに提示をさせていただきました。それぞれの意見聴取会におきましては、それぞれのシナリオについて皆さんに意見をいっていただくという形をとっておりますが、この福島に関してはですね、それぞれのシナリオということではなくて、純粋に抽選をいたしまして、それぞれの皆さんにお話をいただくという、そういう形をとらせていただくことにいたしました。その理由というのはですね、福島におけるこの意見聴取会というのは他の場所での意見聴取会とは全く違う意味合いがあると考えたからであります。大変な原発事故が昨年起こりました。そしてその中で我々はエネルギーの問題について考えなければなりません。もっともですね、この原発の問題について深刻な影響を受けておられて、この問題にですね、問題意識をもっておられる福島県民の皆さんには、自由にご発言をいただくということが、これが政府としての責任ではないかというふうに考えたからであります。またご発言をいただく人数につきましても、他の会場から比較をいたしますと、できる限り数を増やしまして、多くの皆さまにご発言をいただきたいというふうに考えました。時間が若干長い時間になりますけれども、福島の皆さんの関心の高さということを考えれば、これも政府としては取るべき方針ではないかというふうに考えました。30名ということでございまして、この選にもれた方については大変申し訳ございませんけれども、直接ご発言をいただくという機会が無いわけではありますが、そこはですね、アンケートという形をとらせていただきたいと思います。今日は皆さんのお手元にアンケートがまいりますので、ぜひともですね、そこにそれぞれの皆さんの思いをお書きください。それについては、私はもちろんですが、政府の関係者が全てのアンケートの中身につきまして目を通して、その意見をしっかりと受けとめたうえで、これからのエネルギーの政策について検討する材料とさせていただきますと、そのように思っております。今日の意見聴取会はこれまでのエネルギーの議論の中でも、もっとも重要な聴取会だというふうに思っております。私どもも心して聞かせていただきますし、ぜひ皆さまのご協力をいただいて有意義な会にしたいというふうに思っております。ぜひともご協力をいただけますように、心よりお願いを申し上げます。今日はご来場をいただきまして、本当にありがとうございました。

<「エネルギー・環境の選択肢」の3つのシナリオ説明>

◎司会者(下村審議官)

それでは、エネルギー・環境に関する選択肢につきまして、清水治内閣審議官より、ご説明申し上げます。よろしく申し上げます。

◎清水内閣審議官

それでは私のほうから、資料に基づきまして、ご説明したいと思います。エネルギー・環境に関する選択肢でございます。正面のスクリーンにも映しますけれども、お手元に資料をお配りしていると思います。これも適宜ご参照いただければと思います。なお、本日は皆さま方からのご意見をお聞きすることに重点をおきたいと思っておりますので、私からの説明は、極力短くし、はしょったものになることをお許してください。

それでは資料をめくって1ページ目をご覧ください。震災前、わが国は原子力を基幹電源とするエネルギー選択を行いました。しかし、昨年3月11日、東日本大震災と東電福島原発事故が発生しました。ここ福島でも、現在でも多くの人々の苦しみが続いております。このため政府のエネルギー・環境会議では、エネルギー対策を白紙から見直し、昨年7月に原発依存度を可能な限り減らすという基本方針を決定しました。

2ページ目にまいります。この決定を受け、エネルギー選択の方向は原発からグリーンへととなります。このため、クリーンエネルギーへの転換で成長を加速し、需要家がエネルギーを主体的に選択できるシステムに変え、こうした改革を国際貢献につなげていきます。

3ページに移ります。エネルギーの選択を行うにあたっては、原子力の安全確保と将来リスクの低減。第2にエネルギー安全保障の強化。第3に地球温暖化問題解決への貢献。第4にコストの抑制、空洞化の防止。これが重要な視点になります。こうした視点から、今回政府は、原発低減の度合いや再生可能エネルギー拡大の度合いが異なる、ゼロ、15、20～25の三つのシナリオを用意いたしました。

4ページ目は、各シナリオの電源構成になります。一番左側が2010年の実績。ここは火力が主体であります。一番右側に「現行のエネルギー基本計画」の2030年の姿を示しております。ここでは原子力が主体でした。真ん中にある今回の三つのシナリオは、いずれも原発依存度を低減し、緑の部分でありますけれども、再生可能エネルギーを伸ばすこととしております。各グラフでその程度が違ってくると思えます。

5ページ目。ここで三つのシナリオの基本となる原発依存度低減の考え方について、ご説明いたします。まず、共通事項としては、徹底した安全対策によって、リスクの最小化などを図ります。ゼロシナリオでは、2030年までのなるべく早期に原発比率をゼロとするシナリオです。また、15シナリオは、2030年に15%程度としますが、これは40年運転制限制度を自然体で運用した場合に、ほぼ相当し、原発の新增設が難しいという実情を踏まえています。20～25シナリオは、原発を一定程度維持し、2030年に20～25%程度とするシナリオです。原発の新設、更新が必要となります。

核燃料サイクル政策は、ゼロシナリオの場合は直接処分。15と20～25シナリオの場合は、再処理も直接処分もあり得ます。

次の6、7、8ページでは、各シナリオの概要を示しておりますが、今回は時間の関係上、

説明を割愛いたします。

9、10 ページに飛んでいただければと思います。この9 ページ、10 ページには、三つの欄がありますが、ここではグリーンシフトの具体像を示しています。再生可能エネルギーや省エネは真ん中の欄の15 シナリオ、あるいは20～25 シナリオでも相当進みます。さらに対策を進める、一番右側の欄のゼロシナリオの場合は規制を含む厳しい措置も必要となります。

11 ページ目で、各シナリオの電源構成の比較に戻りたいと思います。再生可能エネルギーなど、グリーンへのシフトを大きくしようとするれば、コストも時間もかかります。一方、原発を減らす度合いを小さくする場合には、国民の原子力に対する強固な信任が必要となります。他方、グリーンが開発ができないと、化石燃料の火力に依存せざるを得ず、富の海外流出や、コスト上昇で、国民生活や産業活動に大きな影響が出ます。原発低減や、再生可能エネルギーの拡大の度合いなどについて、見比べていただければと思います。

12 ページ、今後の進め方についてであります。エネルギー・環境会議では、本日の意見聴取会や討論型の世論調査、パブリックコメントなどを実施し、皆さまからの意見を広く募集しています。そのうえで、革新的エネルギー環境戦略を決定し、大きな方向性を定めます。どのシナリオを選択しても、不断の検証と、2030 年を目途に大きな方向性の検証を行うことにより、国民的議論は続くこととなります。

13 ページ目、終わりであります。今回の選択は、国民的な課題の選択であり、将来世代に影響を及ぼす選択であり、世界が注目する選択であります。皆さま方の国民的議論への参加を期待しています。私からの説明は以上で終わります。どうもありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

清水内閣審議官でした。

<意見表明(一般参加者より)>

◎司会者(下村審議官)

続きまして、意見表明の時間に移らせていただきます。まずは、前半の部としてご登壇いただきました、意見表明番号1番から15番までの皆さま、お一人お一人におおよそ5分をめぐりにそれぞれ意見表明をお願いいたします。

なお、この概要につきましては、皆さまの席上配布をさせていただきました、こちらです。意見概要一覧という資料がございます。こちらにきょう意見表明をいただきます、皆さまがお書きになった概要をそのまま掲載させていただいております。

それでは、まず意見表明者1番の方、よろしく願いいたします。お差し支えない範囲

で結構ですので、お名前と、大体のお住まい、ご職業などをお話いただきましたうえで意見表明をいただければと思います。

◎意見表明者 1

福島市のEです。会社員です。

きょうの朝刊に、私は荒川のほとりに住んでいるんですけど、福島市の荒川が日本一きれいな水に今年も選ばれましたという記事が載っていました。水の中には、山肌から流れ込んださまざまな放射性物質も入っているでしょうから、通常の基準できれいだといわれても、全く嬉しくないです。今の福島の水は日本一きれいだといわれても、なんの感動もないし、そういうものを、きょうのこの日に、まず朝刊で読まなきゃならなかったというのが、朝から非常に腹立たしかったです。

私は 30 年ほど前に双葉町で、原発の増設をめぐる公開ヒアリングがあった際に、公開ヒアリングというのはそもそも、東電の社員とか、そういったのが潜り込んで、賛成意見しか述べない、あるいは、買収された地元の人たちが、賛成意見しか言えないような欺まんだ的な場であるから、ヒアリングそのものが意味がないということで、会場の外から批判した側の人間です。そういうかたちで、原発については、昔からずっと反対の立場でかかわってきました。そういう私が、きょうは名前は意見を聴く会ですけども、本来であれば、福島の、いってみればガス抜きかと思えるような場で、こういう意見を表明するというのが、果たしてどうなのかという複雑な思いはあるんです。ただ、やっぱり福島に住む者として、最低限言いたいことは、一人一人みんな腹に抱えていますし、私もせつかくの機会ですから、言えることは言っておきたいという思いがあって応募したわけです。実際に起こってはならないことが起こったわけですから、そういう中で、私がきょう、ここでこういうかたちでマイクを握っているということもあり得るんだなと思っています。

起こってはならないことが起こってしまったわけですけども、私たちはいずれこういったことが起こり得るんじゃないかというものとして、警告を発してきた側の人間です。でも、あの事故を止めることができなかった。認識の甘さ、運動の取り組みの弱さ、いろんなことを反省しました。

事故を起こした人たちは想定外と言っていますよね。起こらないはずだと思っていたんですよね、政府も東電も。でも、起こったわけですよね。一番反省しなくてはならない人は、私たちではなくて、事故を起こしたあなたたちじゃないですか。一番反省しなきゃならない人が、事故が収束もなんにもしていないのに、なんで再稼働なんですか。根本的に間違っていると思います。

言いたいことはたくさんあったんですけども、もう 1 分前というテロップが出ていますので、一言だけ言わせてもらいます。原発再稼働の是非という中で、ストレステストとか、耐震設計とか、津波対策とか、そういったことがいわれていますけれども、その安全性も検証されていないのに、再稼働がなされているわけです。私が言いたいのは、原発というの

は事故がなくなつて、そこで働く人は毎日被ばくすることなんです。被ばくなしにあり得ないエネルギーってあるんですか。原発はウラン燃料を採掘するときから、精製して、運転して、当然膨大な放射性廃棄物が出て、それを処理する。全部被ばく労働ですよ。被ばくしなければ成り立たないエネルギーなんです。

そういう事実が今までみんな分かっている。原発で働いている人は、白血病とか、ガンで死んじゃうんだとか、そういったことはみんな常識として分かっているのに、でも数字上は 40 年間で、死亡労災認定がたった 10 人ですよ。あり得ない話でしょう。こういうかたちで、原発の被ばく労働というのは、実態が隠されてきたし、それが、今収束作業のね、毎日 2000 人、3000 人という人が、とんでもないかたちで、またそういうことに従事させられているわけでしょう。それで、また再稼働ですか。あり得ないでしょう。

命を削って、仕事をしなくちゃならない、それが前提のエネルギーってなんなんですか。15%とか、25%とか、そういう数字の問題じゃないでしょう。命を削ってやらなきゃならない、そうやってつらなきゃならないエネルギーなんて、おかしいでしょう。私が言いたいことは、そういうことです。

そういうことに責任をとれない人が、安易に再稼働とか言わないでください。原発を安易に動かさないでください。責任をとれる人たちの手で、きちんと廃炉作業をしていかなきゃならないし、後世にきちんと安全なかたちで残していかなきゃならない。私はそういうふうに思っています。分かりましたか。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では、2 番の方、よろしく願いいたします。

◎意見表明者 2

伊達市からまいりました H と申します。ゼロ%を選択します。

選択肢が三つしかないから、このシナリオを選択します。でも、思いは 1 日でも早く全ての原発を廃炉にして、事故があってもなくても増え続ける汚染物質をどうしたらいいとか、被ばくしてしまった人、被ばくし続けている人の健康をどうやって守るか。もちろん、再生可能の自然エネルギー、それをもっと開発したり、技術を発展させたり、そういうことに本当の全ての英知を結集してほしいって思っています。

本当にこんなつたない言葉で、多くの人をもっと専門的にいっぱい言っているのに、なんで、わざわざこんなところに気後れしながら来たかという、こういう思いを、いくら署名をたくさん集めても、霞ヶ関に抗議行動に何回行っても、ああ、伝わってなかったんだなって、そんな思いで。こういう場を設定していただいたんだから、こういうところできちんとお話しすれば伝わるんじゃないかなって、気を取り直してやってきました。

私にとっては、何をどんな選択をしても、本当に手遅れなんです。今もまだまだ苦しい生活をしています。それでも、この苦しみをほかの地域の人に広げちゃいけないとか、こ

れからの世代の人に広げたくないとか、思っています。そういう選択、今の私たちならできるんだから、正しい選択をしたいと思います。

私は自然豊かな福島が気に入って、25年前に移り住んだんです。今住んでいるところは10年ぐらいになるんですけど、とても荒れた土地だったんですけど、山の落葉をいっぱいすき込んで、ニワトリ飼って、鶏ふん入れて、すごく安全でおいしい野菜とか、果物がとれるようになったんです。本当に幸せな私の緑の楽園だったんです。おまけもあったんです。クロマドホタル(黒窓蛍)って、皆さんご存じでしょうか。すごくしっとりとした里山にひっそりと生息している飛ばないホタルなんです。5月から10月まで観察できるんです。そんなに長い間光っているんです。でも、すごく地味だから、地元の人さえ気が付かなかったんです。私は、そのホタルと一緒に暮らしていたし、そのホタルの環境を守っていたんだなって、すごく幸せな日々を過ごしていました。

ところが、今度、すぐ近くに仮置き場ができます。放射性物質がそういうものに、どういふ影響があるのか、私には全然分かりません。でも、何十台というトラックが何百回もそこを往復したら、たぶんもうそのホタルはいなくなると思います。私にとっては、本当にダブルパンチなんです。緑の楽園、子どもにも、孫にも残せない。

でも、皆さんにこういうことを、自分もこんなに失ったんだ、つらいんだと言いにきたんじゃないんです。私たちは確かにこんなに多くのものを失ったのに、こういうことを読むと、原発のコストって、ものすごく安いつて書いてあるんです。それ、すごく不思議だつていうのを実感しました。私は正しい選択をしたいと思うんです。私は本当に知識がなかったり、誤解してたりするのもかもしれない。そうしたら、正しい選択をできないから、こういう普通の人にも正しい選択ができるように、こういう資料つて、もっとすごく分かりやすく書いてほしいと思います。ほかに、いっぱい、これは読めば読むほど、国際貢献、環境の国際貢献つてなんなんだろうつて。こんなにたくさんの放射性物質を世界に振りまっちゃつて、しかも原発本体まで輸出するつて、で、どこに国際貢献なんだろうとか、本当に疑問がいっぱい出てきちゃつたんです。本当にそういう単純な、私の誤解かもしれない。そういうことを、まず、こういう資料をつくれた方に、もっと分かるように、正しい選択ができるように、しっかりつくってもらいたいなと思います。

私たちは、本当にいろんな準備ができてきたと思うんです、国民つてね。いい選択をしたいなと思っているから、政府の皆さんに、それを上手に導いていってほしいと、本当に心から願っています。本当にこんなつたない言葉で恥ずかしかつたんですけど、こういう機会を与えていただいたことは、皆さんに感謝します。ありがとうございました。おしまいです。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では、続きまして3番の方お願いします。

◎意見表明者 3

福島市に住んでいます、Bと申します。大学生で20歳になります。

まず、ちょっと思ったことがあるんですけども、この紙を見せていただいたときに、すごくいい紙を使っているなということを感じました。僕が高校生のころは、たぶん予算の関係だと思んですけども、消しゴムで何回も消していたら破れてしまうような紙を使っていたので、ちょっと環境のことを考えると、こういう小さいところから経費削減とかはできるんじゃないかなと感じました。

では、すみません、本題に移らせていただきます。僕は原発については、できるかぎり早期になくしていったほうがいいと考えている人間であります。ただ、前提としてあるのが、一人一人の意見が尊重されることが絶対必要であると思いますし、今、こういう事故が起こって、原発反対の運動が起こっている中で、原発を残していこうという選択をする人たちはもう敵だとみなされていると思んですけども、実際に原発をなくすことにも、当然リスクはあると思いますし、実際、今回の原発の事故が起こったのも、そういう反対派の人たちの意見を無視して、全く見ないことによって起こったので、そういう反対派の意見もちゃんと直視していくことは絶対に必要だと思います。反対派の意見を押しつぶしてしまうと、また同じような過ちを犯すのではないのでしょうか。

ただ、やっぱり感情としては、廃止していくということは必要だと思います。放射性廃棄物の問題もありますし、何かあったときに、一番リスクが高いと思うのが、僕にとっては原子力発電だと思うからです。

きょうは本当にこのような会を開いていただいたんですけども、見たところ、結構空席があって、予想以上に世間の関心は低いのか、皆さんの事情で来られなかったのか、どうなのかよく分からないんですけども、そこはすごく残念だと思いました。

それで、僕はべつに原発を進めたいわけではないんですけども、正しい選択をできるように知識豊富な方々が知識を提供していただくことも必要ですし、僕たち自身も自ら知識を得ようと努力していくことも大事だと思います。そういった中で、全員が正しい方向に向かって行けたらいいなと思っております。

目標を決めることは絶対に大事なことでありますので、どういう選択をとるにしても目標を決めて、それを実行できるように、政府、そして国民が全体となって進めていく必要があると思います。

繰り返しになってしまいますけど、やはり反対派の意見というのも大事だと思うので、そこは同じ過ちを犯さないようにしていただけたらと思います。

ちょっと緊張して、考えていたことが飛んでしまって、少し短いですが、ここで意見表明を終わらせていただきます。本日は、このような機会をいただき、ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。後ほど第2ラウンドをやりますので、3番の方、ぜひ、そこでもう

1 回ご発言をお願いします。

では、続きまして 4 番の方をお願いします。

◎意見表明者 4

こんにちは。私は福島県田村市で工務店を経営しております Y と申します。本日は、よろしく願いいたします。

私はゼロシナリオを選択いたします。ただ、今、この時期に、この場で、いろんな討論をするわけですけれども、シナリオを討論すること自体を、私は矛盾を感じております。その話をさせていただいて、シナリオを選択した理由を述べさせていただければと思っております。

まず、私も今非常に緊張しているんですが、この場に立つてつくづく感じますが、どれだけの一般の人がここで発言しよう、したいと思っているのでしょうか。気持ちはたくさん持っていると思うんですが、非常にこの場に出てくるのは勇気が要ることで、私なども頭の中が真っ白でございます。もっともっと、丁寧に進めていただきたいなとつくづく思っております。

私は、データや資料を持ち合わせておりません。説得力に欠けるかもしれません。ただ、普通の方々が思っていること、日常の仕事の中でお客さまが感じていられることを、私なりに発表させていただければなと思っております。

今、シナリオを選択する矛盾ということで、ネット申込みさせていただくときにも書いたんですが、一般常識として、何かの物事が起こったとき、また事件、事故が起こったときというのは、通常はそれをきちんと調査をして、対策をとって、初めて物事が前に勧められるのかなと思っているんですが、それが本当に当たり前のことなんじゃないかなと思うんですが、今、現在、そういうことが行われているのでしょうか。

福島第一原発について調査され、検証されているのでしょうか。正直なところ、まだまだ解明しなきゃいけないことがたくさんあって、不安なことがたくさんあって、だからこそ、県外に避難している方々がたくさんいるという現状じゃないのでしょうか。それを無視しないでいただきたいと思います。

また、今、幾つかの原発の中で、活断層の問題が非常に取り沙汰されておりますけれども、そういったことが発覚して、それについての調査は、全原発についてしているのでしょうか。それらを全部調査をして、データがそろって、それをこの場に包み隠さず公表をして、初めてこういう討論会の場じゃないかなと思います。

今、ここで選択をしてしまうと、それだけが既成事実になって、前に進んでしまいますけれども、実際は検証されていないことで分からないことがたくさんあるわけで、それはできないんじゃないかなと感じております。まだ、福島原発で何が起こったのか、何が原因だったのかということ自体、分かっていないんじゃないのでしょうか。もう一度、徹底的に、当然福島原発のことについて検証し、他の原発も同じように検証し、今、取り沙汰されてい

る活断層のことなども徹底的に検証し、データを開示して、それで初めて討論ができるような気がしておりますので、きょうの討論会も、私自身は矛盾を感じております。

三つの選択肢の中で、私自体はゼロを選んだわけですが、その理由というのは、もう単純明快だと思っております。福島事故によって、原子力発電というものが何か起こると、人間の力ではもう制御できないものだというのが、明らかに一人一人がみんな学んで経験したことじゃないのかなと思っております。

また、もう一つ、今、原発を稼働させたとしても、それらの使用済み核燃料をどうするかというのは、日本もそうですけれども、各国も実質的にはどうするか決定されていなく、行き先が決まっていない状態です。どうして負の遺産を未来に残さなきゃいけないんでしょうか。その大きな問題を二つ考えただけで、選択肢は脱原発になります。

私たちは、災害で複雑な社会インフラが脆弱、簡単に駄目になってしまうことを学んだと思います。いろんな場所で、食料もそうですし、石油もそうですし、灯油もそうですし、非常に生活に困ったという実感があつたと思います。経済情勢や、社会情勢に大きな影響を受けないこと、われわれの生活に必要なエネルギーを地域で自給できること、地域の安全・安心に大きく貢献した、原発に依存しない生活を目指していきたいと考えます。

ただ、原発に依存しないで、住まいの質を上げることが可能なのかというのは、皆さん思うところですが、3.11を経験して、エネルギーの多消費の現代文明に、今のままではいいんだろうかという疑問を持つ人が増えているんだと思います。私もかなりのお客さまからご相談を受けます。快適で豊かな生活は、エネルギーがあつてのことです。生活の質を上げて、なおかつエネルギーの消費を減らすというのは難問中の難問でした。今までは、たぶん難しかったのかもしれませんが。エネルギーについては、産業界の皆さんは、非常に努力をさせていただいて、今まで頑張っていたのだと思いますが、今だからこそ一層、改革をしていただき、未来ある日本の礎をつくってほしい。企業の皆さんにはそうお願いしたいと思っております。

最後に、私ごとではありますけれども、これからは私たち家庭が挑戦のときだと思っております。家庭のエネルギーの暖房や冷房、給湯などは60%から70%を占めています。これらは低レベルな熱エネルギーです。暖房は20度ぐらいあれば十分で、冷房は外気よりも5度ぐらい低ければ、冷房がもう要らなくなります。お風呂の給湯は40度あれば快適な状態になるんだと思います。これらの低レベルな熱エネルギーは、自然エネルギーをダイレクトに建物に導入することで、それらは解決する問題になってくるのかと思います。高度なエネルギー、通信とか、そういう部分については、電気に変換すればいいのかなと考えております。極論ではありますけれども、60%以上の部分を太陽の熱エネルギーをうまく利用することによって、今までの質を変えないで、節電をすることが可能だと思っております。現実にもそういうことがたくさんあります。ですから、この問題は国民一人一人の意識改革で、たぶん変わるんだと思っております。脱原発とか、原発推進、非常に難しい問題ですけれども、ここで国が、政府が方向を決めたとしても、一人一人の意識が変

わって、考え方が変わって、生活を少しずつ変えていけば、変わっていくのではないかなと感じております。以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では、続きまして5番の方、よろしくお願いします。

◎意見表明者5

私は、田村市在住でございます。私のうちは原発から37キロメートルでございます。ここ1年、特段何も変わったような気配はございません。そもそも私の住んでいる地域は、地震による影響はほとんどゼロに近いということで、一番の問題は放射能の汚染という問題がいつまでも現実的に、精神的にまわりついているという事実でございます。

実は、私はことしで誕生日が来れば51歳。1961年生まれでございます。生まれたその年、9月30日、双葉町、10月22日、大熊町の町議会で、原発誘致の議決がされたと聞いております。設置の段階で、少なくとも、私たちの世代は、この原発について考える余地はなかった。そして、10年後、1971年、1号機が運転を開始し、それから40年後、見事に壊れてしまったということになります。物心ついたときに、ごく当たり前に原発は存在していたのです。つまり、この決断をしたのは誰かということなのですが、決断の結果責任を考えますと、誰もが当事者として全てに関わり、責任を負うこと、負わせることの難しさがここにあります。だからこそ、無責任な判断は許されないと思います。

当時の諸先輩がご健在で、今日の状況を見て、未来に恥じない選択であったと胸を張れるとしたらば、私は考えを変えてもいいんですが、そんなことは絶対あり得ない。今、われわれの世代が、今責任ある判断を求められていると思うんです。政府には、今回の意見集約に基づいて、正しい判断を期待しております。今回に限っては、結論ありきということは、絶対あってはなりませんし、言葉ではゼロベースからというお話でございますが、まずはその判断する立場の方々をまずはゼロベースにリセットしていただきたいと思っております。

そこで、私は原発はそもそも必要ないと思います。私が社会にお役に立てる期間は仮に70歳までとしても、あと20年しかございません。少なくとも、私が生きている間に、心休まる日が来ることを望んでおります。現実的に考えて、未来への問題の先送りは選択すべきではございません。その最大の問題は、核廃棄物の処理にあります。今の時点でも、いずれを選択しても、原発は存在いたします。運転しても、しなくても、リスクは存在します。核廃棄物の処理はごく近い将来行き詰まります。いつ、どこに、誰の責任で、どのように処理し、数万年、数十万年にわたるといわれるリスクを、誰が責任を持って管理するのでしょうか。その明確な国民的な議論もないままに、棚上げの状態でなし崩し的に稼働することは、責任ある行為では絶対にはございません。そして、今ここに福島の実情があ

ります。

さて、長期的なエネルギー戦略として、原発は本当に必要なのでしょうか。今を生きるわれわれは、いいとこ取りだけをしていたのではないのでしょうか。安心・安全は何をもって担保するのでしょうか。識者、政治家の言葉でしょうか。未来への技術確信への期待でしょうか。国は国民の生命と財産を守る義務を果たすと、いつも、私は講習するたびにいわれるんです。それを果たして初めて、私たちは国民として国を支える義務を負うものであって、命があつての経済であり、国民あつての国であり、逆はあり得ないと思います。ましてや、それをてんびんに掛けることは絶対に許されないのです。政府は、最低でも2030年までの間に短期的には、まあ、特に原発を動かしていますけれども、今の原発の稼働を容認することになるのでしょうか。

その場合、安心・安全は新しい枠組みの中で担保するといっておりますが、そうした場合、同じような過ちは起きないのでしょうか。もし同じような事故を繰り返した場合の補償の担保、責任の所在、どうするのでしょうか。いまだに、福島事故の責任の所在は不明確でございます。国民を担保に事業を展開するような経済活動は、全く理解に苦しみます。

リスクが大きすぎて、一般の保険会社で引き受け手のない原発のようなもの、そして特別ルールで巨大になった産業が、資本主義経済の中で、いつの間にか重要なポジションがあることが、冷静に考えると異様に映ります。

社会全体のリスクヘッジとしては、誠にお粗末としかいえません。核ゴミの処理、事故リスクを考えると、安いエネルギーでもなさそうですし、いろいろ調べますと、本来の目的は発電だけではなかったようなことをいわれております。

3.11は非常事態でした。今は異常事態です。そろそろ冷静に現実と向き合わなければ未来は開けないと思います。被害者も加害者も、政治家も官僚もマスコミも学者も、本音で真実を言わなければ、異常事態は乗り切れないでしょう。国民的な議論に委ねるようになって、それでもなさそうですし、責任ある人たちが判断すべきことなのでしょうが、信用がおけない現実がここにあります。今は異常事態です。平時のシステムは役に立ちません。原則論は要りません。

今度、特措法の中で、30年以内に、今回の震災、事故による放射性廃棄物の県外での最終処分とあるようですが、こんなのは現実的に可能なのでしょうか。皆さんは分かっているはずですが。小手先の論理はなんの解決にもなりません。今、責任ある人たちに問いたいと思います。未来への期待といえば、聞こえはいいのですが、問題の棚上げとしか私には映りません。それは、未来に禍根を残す結果になります。ここに今日の問題の本質が隠れていると思います。

福島に生きるということは、どういうことでしょうか。われわれは放射性物質の二次的拡散を防ぐためには、腹をくぐるしかないと思っております。原発を受け入れたということは、もしやすると、その覚悟も求められたということなのかもしれません。未来への責任は、今

をあずかるリーダーにその責任が果たせますか。そして、今日まで無関心で容認してきた、今を生きる私たちに覚悟ができているか。それも問われているのだと思います。

今、長期的な視野に立って、未来への責任として正しい選択をしなければなりません。改めて申し上げますが、私はその選択に原発は必要としません。これは近江商人の言葉に、売りよし、買いよし、世間よしという三方よしという言葉がございます。どの一画でも崩れたらば、商いとしては成り立ちません。今の原発がまさにそうでございます。そして、今回の事態について、関係ある全ての政治家、役人に結果責任を私は問いたいと思っております。

◎司会者(下村審議官)

申し訳ございません。そろそろお時間ですので、よろしく。

◎意見表明者 5

はい。私はあなた方に白紙委任をしたわけではないのです。誰もが納得のいく成果を求めているのです。国民の期待に答えることができない人は、自らの意思で土俵から去っていただきたい。これが何よりも安心につながるものと思います。

それと、もう一度申し上げます。原発は今存在しております。善し悪しは別にして、放射性廃棄物の処理の技術も確立しておりません。放射能は確実に封じ込めることが基本です。それさえできない現実がここにあります。問題の先送りは許されません。決められる政治というのであれば、今こそ未来に恥じない選択をしなければならないのです。終わりです。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では。

(会場から意見)

すみません。では運営側と。分かりました。すみませんが、運営側とちよつとお話をしてください、その件は。引き続き皆さまからご意見をお伺いしたいので、よろしく願います。運営側の方、ちゃんとご意見を伺って対応をお願いいたします。

それでは、6 番の方、よろしく願います。

◎意見表明者 6

よろしいでしょうか。福島在住の B と申します。

今のお話で、ぜひとも中に入れて皆さんの意見を聞いていただきたいと、その思いを込めて、大臣お願いいたします。許可してください。駄目なんですか。今手を振ったんですけども、入れてあげていただきたい。これは福島の民意です。よろしく願います。

◎司会者(下村審議官)

事務方、いかがですか。確かに空席は十分にあるように見えますけれども。

◎意見表明者 6

その間、こちらの意見は述べさせていただきますので、どうぞ、中の空席に入れさせてあげてください。これが意見聴取の本来の筋じゃないでしょうか。

◎司会者(下村審議官)

事務方のほうで、今、この間にちょっと協議してください。よろしく願います。
では、よろしく願います。

◎意見表明者 6

はい。私は、これは 15%と書いたんですけれども、実質は 15%は認めておりません。なぜ、政府のゼロ%、15、25 というパーセントで表すのか、正直申しまして、意味が分かりませんでした。数字で表せるものなんでしょうか。

あと今後の対応の仕方とここに書いてあるものは、去年震災が起きた4月に、いろんな段階で、各中央のテレビ局、あと原子力保安院、県庁、市長にメールで意見なり、提言をさせていただいた中身です。ただ、それに対しては一切テレビの話題にならないのか、知りませんが、相手にされなかったというか、そんな内容です。きょう、この場を借りて、機会を与えられたので感謝申し上げて述べたいと思います。

福島の場合と福島県外の再稼働についてのものが一緒になっています。今後の対応について、福島はゼロ%。福島県内の再稼働は 100%反対です。それで、じゃあほかの15%未満はなぜかという、この前、大飯原発が再稼働を強引にされました。でも、それ以外にも、今、各電力会社はなんだかんだいいながら、再稼働に向けて進めています。それをやる前に、全て動かすのではなく、動かすときの安全性を保障したうえならば、何基かはいいのではないかとということで、この意見を出させてもらっています。

ただ、それを再稼働するための条件は、幾つか書いてあるとおり、あります。まるっきりゼロだと、代替エネルギーがまだ確保できていません。そのために、今後、止めた場合に、各産業、工業が後れてしまう。今、努力して皆さん節電しながら、なんとかやりくりしている。でも、やはり電力量には限りがありますので、メガソーラーとか、今はいろいろ出ていますが、それだけでは補いきれない、賄いきれないということで、最低、各電力会社、1 炉 1 基、6 基あるのであれば、1 基のみ。ただ、それも期間限定、条件付きでやるべきではないかということでございます。

再開の条件としましては、今回、福島で問題になった放射線の拡散の対応が何もされていない。かえって拡散しているのに、政府は隠しとおして安全だといいいながら、間違った指示で、その放射線の流れているところについて、いろんなものを起こしております。そのために、原発なり発電所を、正直困らしてしまえと。ドームの中に入れてしまう。昔の鉄腕

アトムとかですと、昔のガチャガチャのような丸い中に、街が入っているような、建物が入っている、そのようなかたちで放射線を外に漏らさない。ただ、もしなんかあったときのためと、あと今後の科学技術の進行を妨げるわけにはいかないのです、その出入り口に何か所かは、放射線の漏れのための技術をつくった建物なり、システムを設置しなくちゃならないと。当然、そういうものが出てくる必要があるんじゃないかと思います。

あと、設備でモニターカメラとか、測定機器は、やはり二重三重に場所を変えて置かなくちゃならないんじゃないか。あと、非常用の調査用ロボット、無線、無人の観測用飛行機器。そういうものを準備しておかなくちゃならないんじゃないか。あと、管理センター、オフサイトセンターですか、そちらには専門家以外の、やはり民間からも監視員を常駐させ、一つでもなんかおかしい動き、隠しそうなものがあつたらば、情報公開に踏み切るという必要性も感じています。あと周辺の高速道路は、ドームとかのトンネルで、ちょっと距離数が長いんですが、そこで物流の流れを止めないようにしないと、その区間が通行止めになって、何もできなくなります。そういうものを考えてほしい。あと、住民の健康調査。これは、内部被ばく、心臓等に障害を持っている人、子どもたち、この人たちに対しても、やはり毎月なり、健康調査を行う必要があるんじゃないかと。

あと一番不安になっているのが、今、自然災害はなんとか出るんですが、まだ想定されていないテロ攻撃が起きた場合、特に飛行物体での攻撃、ミサイル、北朝鮮テポドン、あるいは 9.11 のような飛行機での命中。昔のゼロ戦、特攻隊じゃないですけども、そういうものが来た場合に、すぐ対応できるのか。安全なのか。迎撃態勢なり、そういうものができていないのではないかと。スカッドミサイルを撃つにしても、その手順の上下間の流れを待つ動きをとっていたらば、あっという間に終わりです。そのへんを踏まえて、きちんとしたものにしてほしい。

最後にちょっと時間がないので、大臣早く福島に避難している子ども、老人の方たちを地元に戻してあげてください。放射線の漏れているような土地、そこは除染しても、元がなければ、放射線は出たままです。きちんと処理してください。以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。先ほどの方、ありがとうございます。今、判断しました。既にロビーにいらっしゃる方については、空席がありますので入場いただきます。皆さん、意見を聞き合いましょう、まずは。そして、そのうえで、さらにこれからの考えを深めていきたいと思えます。

それでは 7 番の方、お願いします。

◎意見表明者 7

福島市渡利に住んでいます。N といいます。団体職員です。去年の夏、除染大変でした。

原発依存度についての三つの選択肢について意見を述べるということが、この聴取会の趣旨ですが、その趣旨そのものを否定するようなことなんです。原発依存度というものは、政府が決めるべきものではないと思っています。ただし、さらにいえば、反原発の人々が求める、原発廃止の国民投票、これは一見われわれの主張を直接反映させるような、よいやり方のように見えますけれども、国民投票というのは、49%の少数派の人々を、51%の多数派の人々が押しつぶす、最低最悪のやり方です。どちらにしろ、これを無理やりやるようなことがあれば、尊王攘夷の幕末のように主義主張の異なる者同士、利害が異なる一般市民同士がいがみがあって、最悪殺し合うような世の中になるおそれがある。自分の主張は絶対正しい。反対するものは悪だ、つぶしてしまえ。このままエスカレートしてしまえば、日本だっていずれは環境テロなどが起きてもおかしくはない。政府にしろ、国民投票にしろ、一方的に原発の割合を決めるべきではない。

原発の割合は、自分たち、国民一人一人、消費者としての選択の結果によるべきだと思う。具体的にいえば、電力の自由化。自分たち一人一人が、何由来の電気を使うのかを選ぶ。原発由来の電気を使うのか。火力由来の電気を使うのか。環境エネルギー由来の電気を使うのか。自分たち一人一人、家庭1世帯1世帯が消費者として、自由にエネルギーを選択する。原発の割合はその結果によるべきだ。

多くの消費者が環境エネルギー由来の電力を選択すれば、環境エネルギー分野にどんどん企業が参入して、原発なぞ不要だ、それぐらいの電力を生み出すかもしれない。それならそれで国民の選択だ。そのときは、政府も原発を廃止することを考えてもらいたい。

ただ、環境エネルギーには、どれぐらい普及するのかという疑問もあります。単価はやっぱり高い。電気料金の値上げを我慢して、どれぐらいの人々が選択してくれるだろうか。それに環境エネルギーで電力をどれぐらい生み出せるのか。いわき沖の風力発電の話、生態系に影響を与える、磐梯の地熱発電、温泉観光業に影響を与える。そういうふうに、いろいろ制限がかかって、いくら消費者が自分は環境エネルギーを使いたいといっても、発電する側がそれに応えられない可能性がある。

一方、原発。国民の信頼がないかぎり、駄目だ。根本的に核のゴミは、どこにも捨てられない。その問題は解決できていないわけだし、震災、津波で原発の安全神話なんて消し飛んだ。原子力ムラの電力会社、経済産業省の役人、原子力の学者連中、どいつもこいつも無能な連中ばかり。それがはっきりした。原発の安全性を飛躍的に高める、核のゴミを途上国に捨てるとか、そういう駄目駄目な解決方法ではなくて、ちゃんと科学的に無害化したうえで処理できる。それらがクリアできないかぎり、原発というものは、日本の将来に欠かせないエネルギーと再評価される可能性は、かなり低いだろう。

原発か、環境エネルギーか、あるいはその他か。お互いの産業同士が競い合って、消費者の選択によって選ばれる。原発のシェアというものは、その結果によるべきだ。そして、消費者一人一人の選択の結果については、原発推進派も反対派も文句をいっては

いけない。国民一人一人も自分が選んだ結果について、重大な自己責任を持たなきゃならない。原発賛成にしろ、反対にしろ、その選択をわれわれがするための、自由に電氣を選ぶための選択肢を、自分たちに与えてもらいたい。まずはそのために、電力の自由化。そのための、発電・送電の完全な分離。これを野田総理には求めたいと思います。以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では 8 番の方、よろしくお願いします。

◎意見表明者 8

会津若松市から来ました N といいます。職業も言えということなんで、私は現在無職です。年金で細々と生活しております。自他ともに認める善良な市民であります。

先ほど大臣が、福島県の聴取会は特別なんだということを再三おっしゃいました。私は福島県で、きょうの発言予定者の要旨を拝見すると、もう圧倒的に原発をなくしてほしいという声が多いんです。そういう圧倒的な声の中に来られるんで、その覚悟でいらっしゃったと思うんですけれども、それで、なんとか聞き終わった、これでよしということになっては大変困ります。私もこれが政府の原発再開のアリバイづくりに利用されるのではないかというふうな不安を内心持ちながら、参加させていただきました。

まず、私は発言の趣旨にある一部を訂正させていただきます。8 番なんです、全国原発全てを速やかに廃炉にすべきと。以前書きましたが、これは私はやはり全国全ての原発をただちに廃炉にすべきというふうに改めさせていただきます。

理由なんかどうでもいいのかもしれませんが、理由には、私の原発に対する思いが込められておりますので、理由をあえて言わせていただきます。

私自身は会津若松に住んでいまして、原発事故が起きるまでは正直不安は持っていましたけれども、原発のことを真剣に考えてきたかといわれると、そうではなかったという反省があります。それというのも、原発立地で普段の生活を送っておられる方々、それがたくさんいらっしゃるわけなんで、さほど心配なことはないのかなというふうに考えてきました。ところが昨年、福島第一原発の事故が起きました。これは世界の原発政策を揺るがす大事故だったわけですね。結果的に自分は、傍観者に過ぎなかったということを反省させられ、大いに恥じ入った次第です。

原発事故は、戦争と共通する一面があります。どちらも国策として推進され、私たち、個々人には選択する余地がありません。よく生活にはリスクがつきものだし、原発も同じという人もいます。しかし、大抵のリスクは意思によって避けることができます。同時に戦争や原発事故は否が応でも巻き込まれる。その点で決定的な違いがあります。第 2 次大戦中、命懸けで反戦を貫いた人々がいて、この人々が戦後日本の良心として内外の尊

敬を集めたことを知りました。結果として、戦争に加担したことを多くの人々が反省したはずです。マスコミも例外ではありません。国策のイデオログとなった自らを反省したはずです。そのことを考えたとき、言論の自由、表現の自由が保障された今、私は一字一句自分に正直でありたい。そう思ったことが訂正の理由であります。

時間がもうあと 1 分しかないようなので、急いで、私のここで本当はいわんとすることを申し上げます。3 点考えてきました。まず第 1 は、使用済み燃料の安全な処理方法もなく、いったん事故が起きれば、人類の手に負えないことが明らかになった原発はただちに全て廃炉にすべきです。原発がなければ、経済の停滞や、工場の海外移転による産業の空洞化を招くという、わけの分からない人もいますけれども、福島の実態は、原発があったがゆえに起きたことであり、人類の生存を危険にさらした選択などあり得ようはずがありません。

第 2 に法治国家の常識として、今回の大事故の責任の所在を明らかにすることです。必要な注意義務を怠った組織はもちろん、個人にも相応の処罰を下すべきです。事故の原因をつくった、東電、メーカー、施工業者、政府、官僚、学会に対する国民の根深い不信は、時間が経過すれば解消するというものではありません。責任があいまいなままでは、よくテレビで見るように、深々と頭を下げて「申し訳ございませんでした」と言うことで、同じ過ちが繰り返されるに違いないからです。

さらに事故後、次々に明らかになった情報隠しについても、かかわった責任者をさかのぼって罰する。例えば、情報を隠ぺいして、国民生活を危険にさらした罪などの法律をつくるべきです。

すみません。拍手で中断させられるものですから、まとめてくださいという、その拍手の時間をいただきまして、最後述べさせていただきます。

第 3 には、冒頭の政府説明にもあったように、原発からグリーンへというのであれば、選択肢三つのシナリオを並列的に置いて、あたかもゼロシナリオは難しいですよといわんばかりのやり方ではなくて、グリーンエネルギーをしっかりと柱に据えて、理想実現のために知恵を絞るのが、原発事故で世界を震え上がらせたわが国の責務ではないでしょうか。世界はもはや脱原発への、とどめることのできない大きな流れになっています。以上、私の意見を述べさせていただきましたが、原発を全廃してほしいは、大多数の、100%とは言いませんけども、99.9%ぐらいですか、の福島県民の心底からの願いであることを、きつくマスコミの皆さま方には、福島を見捨てることなく報道していただきたい。このことをお願いして発言を終わります。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

ご報告申し上げます。先ほど 6 名の方がロビーにいらっしゃるということでしたが、さらに加えて、合計 8 名の方に新たにお入りいただきました。ご入場いただいた皆さま、もしかし

ましたら、ちょっと分かりませんが、入り口でお時間を要してしまったかもしれません。その間、貴重な話を聞く時間が減ってしまったことをおわび申し上げます。

それでは続けます。続きましては 9 番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者 9

皆さん、こんにちは。郡山市の I と申します。私は郡山市内の県営住宅に住んでおりますが、自分の自室の前が広場になっていまして、そこに大型の遊具が設置されています。

その場所で測定してみますと、1 時間当たり常時 0.8 マイクロシーベルト内外の放射線量を示します。法規に定められた放射線管理区域の設定基準を 1 時間当たり線量に換算すると、単純計算で 0.6 マイクロシーベルトになります。「労働安全衛生法」に、事業者は必要のあるもの以外の者を管理区域に立ち入らせてはならないなどと定められています。この広場は本来なら、部外者の立ち入りが厳しく禁止されるはずの放射線管理区域に相当する場所です。

ですが現実はどうでしょう。放射線管理区域の標識もフェンスもバリケードなども設置されず、団地住民の幼い子どもたちが自由に出入りして遊んでいます。この団地の管理責任は福島県知事にあるはずですが、その県知事が任命した放射線健康リスク管理アドバイザー 3 名は、健康リスク回避を図らず、もっぱら放射線安全キャンペーンに奔走し、その代表格、山下俊一氏は、ミスター 100 ミリシーベルトと国際的に揶揄されるありさまであり、山下氏が指導する福島県立医科大学の県民健康調査は、県民に信用されておられません。

福島県に見る放射能被ばく対策の実態の奥には、国の基本的な姿勢があるはずですが、昨年 3 月の事故発生直後、アメリカ政府は自国民に原発事故現場から 80 キロメートル以内の地帯からの待避を指示しました。イギリス大使館は、羽田空港に香港行きチャーター便を用意して、自国民だけでなく、旧植民地である香港の市民まで国外退避させたそうです。翻って、わが国の対応はどうだったか。事故のさなか、SPEEDI 情報さえも隠し、逃げ惑う被災民を無駄に被ばくさせたことは周知の事実です。昨年 11 月内閣官房に低線量被ばくのリスク管理に関するワーキンググループが設置されました。これは国内外の科学的知見や、評価の整理、現場の課題の抽出を行う検討の場とされていますが、報告書や発表、概要などを読んでみると、低線量による健康被害を軽視するものが多く、また 11 月 28 日第 5 回会合に、海外から招かれた報告者は、原子力産業との共存を説く ICRP の科学事務局長、クリストファー・クレメント氏、あるいはベラルーシのエートス (ETHOS) プロジェクトで知られるジャック・ロシャール氏であり、政府の放射線被ばく対策は、健康リスクを回避するためのものではなく、これを隠ぺいし、経済的、社会的要因を重視する姿勢を見せています。

細野豪志原子力行政担当大臣をはじめ、内閣は国民の命と健康、なにかんずく子ども

たちと命と健康、そして未来を守るといった全体の奉仕者としての公務員の本文を忘れ、倫理的な混迷に陥っています。

昨年6月、郡山市内の小中学生たちが、法律で定める一般人の年間被ばく許容限度、1ミリシーベルト以下の安全な場所での教育の実施を求める仮処分を、福島地方裁判所郡山支部に申し立てました。ところが、野田佳彦内閣総理大臣が、なんの根拠も道理もなく、福島原発事故の収束を宣言したのと同じ、昨年12月16日、福島地裁の判事たちは、年間100ミリシーベルト未満の低線量被ばくによる健康への影響は実質的に確認されていないなどという、放射線安全プロパガンダを宣言する、無謀な論理でこれを却下しました。法の番人たる裁判所までもが、いわゆる原発ムラによる圧力に屈したのです。目下、この通称、ふくしま集団疎開裁判は、仙台高等裁判所で抗告審が行われていますが、世界市民法廷など、市民による合法活動によって、世界の良識の注目を集めています。日本が法治国家であるか、子どもたちを守る社会であるか、世界が今福島を見つめております。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

◎意見表明者9

まだ。

◎司会者(下村審議官)

そうですね。ごめんなさい。ちょっとお時間が2分ほど超過しておりますので、じゃあ手短かにお願いします。また、もう1回後ほど発言機会がございますので。

◎意見表明者9

じゃあ、もう1点ありますので、その次の機会にじっくりと述べます。お願いします。

◎司会者(下村審議官)

分かりました。ありがとうございます。申し訳ございません。皆さまから、ご意見を伺うために、きょうは30人という、いつもよりずっと多くの方にご登壇いただいております、制約するのが本当に心苦しいのですけれども、ご協力よろしく願いいたします。

では、10番の方お願いします。

◎意見表明者10

はい。私は福島市に住んでおりますHと申します。

私はゼロ%を望むということで、ネットでクリックしたんですが、この福島市で開催されて

いるのは、広く県民の声を聴く会だというふうに聞いております。ただ、先ほどもありましたように、広く福島県民の声を聞いた。それをアライバイ工作にしてほしくありません。

先ほど、別の方も申しましたが、私たちは異常な事態の中で、日々生活をしております。街の中を見ていただくと、あちらこちらにモニタリングポストがあります。そして、天気予報の予報の中に、本日の放射線量、文部科学省発表ということで、必ず入ってまいります。そんな土地に住んでいる私たちは、正常な生活をしているといえるのでしょうか。事故から1年以上が経過しても、十分な補償もないし、除染もしっかりされておられません。そういったものが全て個人の責任に期されております。国が責任を持って除染をするといいますが、全然進んでいないというのが実情じゃないでしょうか。

国の所在が明らかにされない中で、原発の再稼働、原発依存うんぬんというのは全くの論外です。住み慣れた土地を追われ、仕事を奪われ、家族も分断して、戻ることもかなわない人たちがたくさんいます。小さな子どもを抱えた親は、子どもの低線量被ばくと健康被害におびえています。生存権も保障されていない中で、私たちは日々を送っています。

私は原発反対を唱えると、経済を知らないとか、自分の主張だけを一方的に申し述べているとか、自給率の低いエネルギーの対策をどうするんだとか、感情論だ、あるいは安全保障をどう考えるんだというふうに、すぐに突っ込まれます。でも、私は怖いんです。本当に怖いんです。

私は54基が国内で稼働しているということは知っていました。でも、国が安全といっているものを疑う理由は全くありませんでした。私は福島市ですから、浜通りからは離れたところに住んでいますが、正直いって、危険性も、安全性も全てに無頓着でした。ところが、今回このような震災の結果、地震とか、津波とか、原因はうんぬんされておりますが、現実には多くの県民が被ばくをしました。十分な情報もないままに、全て自己責任で逃れて、全て自己責任で避難し、生活をしなければいけない、そういう状況をつくり出した政府の責任をきちんとしなければいけないというふうに思います。

今、1年と4カ月たちましたが、私の中には悲しいことがたくさんありました。例えば、昨年12月、原発事故の収束宣言。こんなのあり得ないことです。何をもちて収束というのか。そして、続けて政府は言います。世界最高水準の安全をつくる。これは私たちの犠牲のうえに成り立たなければならないものなのではないのでしょうか。そして、大飯原発の再稼働にいたっては、国民の生活を守るためと野田さんと言いました。私たち、福島県人は国民ではないのでしょうか。

私たちは、もう棄民としかいいようがありません。何度も何度も国に捨てられているというふうに、私は感じて、政府の報道を聞くたびに悲しくなっていました。人々がなぜ毎週金曜日、あれほどの、4月以降途切れることなく、官邸に集まってくるのか。代々木公園や明治公園をあれほどの人が埋め尽くすのか。考えてほしいと思います。それは、反原発の流れに動いた熱病でも流行でもありません。それが、本当に人々の心からの叫びだ

と思います。本当に私は怖くてたまりません。私には、娘が二人いますが、ここで生活をさせて、子どもを産ませて、ずっとここに置いておいていいものかどうか、親として切実に考えます。後で、子どもにすまなかったと言うような生活が私を待っているのかと思うと、すぐこれも悲しくなってしまう。

私がゼロというふうに申し上げたのは、増え続ける核のゴミを、原発を稼働し続けることでますます増えていく、その高レベルの放射性廃棄物の処理もできないままに、原発の稼働などあり得るのかということです。この廃棄物が増えるということは、私たちが子孫に残していくお荷物が増えるということです。

私は去年の6月に福島市にありますフォーラム福島という映画館で、フィンランドのドキュメント映画を見ました。『100000年後の安全』と映画でした。大臣はご覧になりましたか。その中で、ヨーロッパでは核が安全なものになるためには10万年、アメリカでは100万年かかるといわれております。フィンランドでは4基を廃炉にして、地下深くに放射性廃棄物を埋めるということを、国家プロジェクトとして行っています。それをオンカロプロジェクトといいます。10万年超に及ぶ使用済み核燃料の保管を管理する。日本も原発を稼働させない、止めることになれば、同じような問題が生じてきてはきますが、フィンランドの地下処分場の入り口にある看板に書かれていることを読み上げて、私の発表にします。

ここは21世紀に処分された放射性廃棄物の埋蔵場所です。安全なところに保管する必要があります。決して入らないでください。放射性物質は危険です。透明で匂いもありません。絶対に触れないでください。地上に戻って、われわれよりよい世界をつくってほしい。近づかなければ安全です。幸運を。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。『100000年後の安全』を大臣は見ましたかという問いに、細野大臣は深くうなずいておりました。

それでは11番の方、よろしく申し上げます。

◎意見表明者11

はい。ゼロシナリオ以前に即刻原発全基稼働をやめ、廃炉にさせていただきたい。きょうはこの意見を聞いていただくために応募して、当選しました。まるで宝くじに当たったように、仲間からは「おめでとう」と言われました。

私は原発から約65キロメートルの須賀川市に住むKといいます。中学1年生から27歳までの5人の子どもを持つ農家の嫁です。きょうも農作業をちよつとしてきました。14年前に持続可能な生き方を実践するために、穀物菜食の小さなレストランを始め、ようやくわが家の食材をベースにほぼ自給自足がかたちになってきたところでした。開業以前から、仲間たちと食の安全と環境問題に注意を向けてきました。特に原発は、いつかどこかで

また大きな事故を起こすかと心配していましたが、まさかこんなに近くで起こってしまうとは思ってもみませんでした。自分自身、どこか遠い他人ごとのように思っていた部分があると、今は本当に反省しています。

だからこそ、原発から卒業するため、公官庁への申し入れや、署名集め、デモや集会、できるだけのことやってきました。私たちの声を、政治を動かしている皆さんの心に届けなければ。ずっとそう思い続けてきました。きょうのこの機会を本当に感謝しています。聞いてくださっている皆さんも、ありがとうございます。

前から言われていますが、採掘される燃料のウランがオーストラリアやアメリカの先住民の人を被ばくさせ、従事する人を被ばくさせ、原発で電気を得るために、この先もどれほど犠牲になればいいのでしょうか。仲間が言いました。「福島で事故があつて、最悪の状況ではあるけれども、これで原発は止まるね」。それなのに、もう再稼働です。恐らくこのままでは、子どもたちも、私たちも、皆さんも犠牲になるでしょう。静かに静かに忍び寄ってくると思います。もちろんそうならないために、私たちはなんとかして、子どもたちを、家族を、仲間を守っていきたくと思っています。

今も使用済み核燃料の処分の方法も先送りで、このまま原発を続ければ、危険も費用もかさむのは目に見えていて、いずれ私たちにさらに重くのしかかってくるでしょう。

昨年5月23日は、文部科学省に申し入れにも行きました。福島からは、小さな子どもさんを含め、70、80人がバスで文部科学省に乗り入れ、全国からも数千人が文部科学省を人間の輪で包囲しました。そのとき、私たちは再三、文部科学大臣に面会を申し入れてきましたが、高木義明文部科学大臣はとうとう姿を現しませんでした。

屋根もない石畳で、途中小雨が降る中、私たちの必死の申し入れにもかかわらず、学校へ通う子どもたちの年間20ミリシーベルトを撤回していただくことさえできませんでした。なぜ、学校をつかさどる文部科学省が、子どもたちの安全を最優先で動けないのか。私には今も納得できません。文部科学省の建物の内部には、文部科学大臣室のレプリカとか、給食の変遷とか、時代ごとの教室の様子とか、いろいろな展示がありますが、その中で一番お金がかかっているような展示は、原発の安全性を強調する展示でした。

福島の事故の収束宣言は本当ですか。原因についても、責任についても、政府も、電力会社も、原子力安全委員会も、さらに詳しい調査をと言いながら、責任のなすり合いを延々と続けているばかりではありませんか。健康被害が出ないように、せめて定期的な保養や学童疎開などが、最優先で国の指導で行われてもよいはずなのに、国会を見ても、政党や派閥争いばかりで、なかなか建設的な進展がありません。

裁判を起こさないと、その裁判でさえも負けてしまうのですが、子どもたちの命を優先することはできないのでしょうか。今、多くの子どもたちが避難や保養ができてるのは、自力か、民間の温かい心のある支援者さんたちのおかげであつて、まだまだほんの一部しかできていません。

大飯原発が再稼働するときに、首相は「私が責任を取る」と豪語しましたが、東電の原

発事故で誰が責任を取ってくれましたか。ただ辞めたぐらいでは、責任を取ったことになりません。潔く原子力発電をやめていくことですか、本当の意味で責任を取ったことになりません。私はそう思っています。皆さんもそう思っていますね。

税金がすぎ込まれているというのに、電気代も上がっているというのに、東電の社員に地方の民間企業ではあり得ないほどのボーナスが出ていて、本当は私たちにとうに知らされるはずのことが、後から後から出てくるんです。私たちの不信感はさらに募っています。

何度も繰り返される「直ちに影響がない」という言葉が、長期にわたって影響があるという意味であることを、今ではほとんどの人が気が付いています。本当に大丈夫かどうかは、5年、10年、もっとたないと証明されたことにはなりません。それまでは、本当の安全など断言してはならないのではないのでしょうか。

それでも原発を推進しようとするならば、この福島に、この世界中にばらまかれた放射性物質を一粒残らず片付けてください。事故が起きても簡単に後始末できる技術も確立しないまま、決め手となる使用済み核燃料の処理法もないまま、命を最優先させる気持もないまま、原発を稼働させるというのは、本当にやっていけないことなんです。

原子力規制委員会に、事故の責任を取るべきような人が、推進してきた人たちが入っていますね。そういうことも許せません。このままその人たちが人事で決まってしまうと、5年間罷免もできないということを聞いてびっくりしました。それが通ってしまうなんて許せません、本当に。

私たちは、原発に「今まで本当にご苦労さま」と言って、永続可能なエネルギーにすぐにでもシフトして、調和の取れた心豊かな暮らしを新たに築いていくことができると信じています。1人の福島県民として、1人の日本国民として、1人の母親として、1人の人間として、原発そのものを即刻やめるように心から求めます。

これが私からの意見です。ありがとうございます。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では12番の方、お願いします。

◎意見表明者12

富岡町から福島市へ避難しているLといいます。私はゼロシナリオといいますか、全ての原発を早く廃炉にしてほしいという立場で意見を述べさせていただきます。

ことしの夏は一段と暑い夏です。しかし、昨年の東京電力の計画停電騒動がうそのように、ことしは静かです。もちろん、日本全体で大変な努力をして節電をしていることや、各電力会社の節電への協力依頼があつてのことだと思えます。ネットで調べてみたのですが、きのうの暑いさなかでも、各電力会社の電力使用量は軒並みに90%台以下でした。

原発を再稼働する必要はないように思います。

それなのに、どうして政府は、関西電力は大飯原発の再稼働をしたのでしょうか。しかも「次は高浜原発を」の発言まで出ています。こうして次々に再稼働を許すのでしょうか。報道によると、枝野さんは高浜再稼働に対して不快感を表したとありましたが、原子力規制委員会の発足を待たないで、という趣旨の発言もされていたと思います。

では、大飯原発の再稼働は何だったのでしょうか。矛盾していませんか。原子力規制委員会ができれば、原発は安全なのでしょうか。そうではないと思います。地震列島の日本で、どんな想定外の大地震や大津波が来ても壊れない原発なら、安全といえるでしょう。しかし、そんな原発、今の日本にあるのでしょうか。ないと思います。今すぐ全て廃炉にすべきです。

ドイツは、福島事故後いち早く原発廃止を打ち出しています。それなのに、当事国の日本がどうしてできないのでしょうか。決死の覚悟で事故処理に当たった方々、今も作業している方々、そして、いまだに郷里に帰れず、やり切れない思いで不本意な避難生活を余儀なくされている何万人もの人たちに報いるためにも、福島と同じ過ちを二度と起こしてはならないと思います。

事故を起こした日本、世界で唯一被爆国の日本が、世界に先駆けて脱原発宣言をすべきだったのではないのでしょうか。心の底から、原発がクリーンで安全なエネルギーなどと思っている人が、今の日本には、いるとは思えません。少なくとも、福島県民にはいないと信じます。つくられた安全神話はとっくに崩壊しているのです。

処理方法がなく、ただ水槽に漬けて放射能の発生を抑えるだけの使用済み燃料棒が、各原発に一体いくらあるのですか。どう処理するのですか。老朽化する各地の原発をどうするのですか。脱原発へのかじ取りをする絶好の機会なのではないですか。福島原発の廃炉に30年から40年もかかるというのに、今後も稼働させる原発は廃炉に50年も60年もかけるつもりですか。何年先の子孫までつけを回すつもりですか。

野田総理、再稼働の決断をした政府首脳、あなたたちは50年、60年先までの責任を取れるのですか。先を見越して消費税の引き上げを決断された野田さん、原発がもたらす負の遺産を見越せないとは思えません。あなたは先の読める人です。いまや日本各地で毎週金曜日に行われているデモ、参加者の心からの叫びも届いているのだと思います。

総理、ドジョウに戻ってください。泥をかぶってください。どうか、どうか、どうか全ての原発を廃炉にしてください。安全でクリーンなエネルギーの開発を進めてください。そのために多少電気料金が高くなっても、私たちは我慢できると思います。心からお願いいたします。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では13番の方、よろしくお願いいたします。

◎意見表明者13

福島市に住むMと申します。13年間、この間まで宮城県で自給的生活をやっておりました。そこで、かすかなお金と自分で食べものをつくって、薪で食事をつくって、風呂に入って、低コストというか、そうした生活をしてきました。民宿もしていたので、少しだけのお金。でも、幸せでした。それが3.11に根こそぎやられました。孫たちも来なくなりました。外国の研修生も来なくなりました。自分の思いも回せなくなりました。食事さえつくれなくなりました。無念でなりませんでした。

ですから、怒りを持って、そしてまた3.11のその問題に肉薄できず、政治的や社会的にエネルギー問題に迫られなかった自分をもう一度見直してみようと思って、線量の高い福島市にあえて来て、いろいろな思いで生活しております。

駅前に、こむこむという子どもたちの施設があるのですが、1メートルぐらいの高さなのですが、その線量は、先ほど見てきたら0.58でした。十分な高さです。人はいてはならない福島市なんです。そこで今このようにして、次世代のエネルギー問題を、環境を語らなければならぬこの事態。もうここで私は胸がはち切れそうです。人がいてはならないところに、先ほども、子どもたちはマスクもかけずに喜々として歩いていました。いつも、そういう姿を見て、「逃げて」と思うのですが、その言葉は出せません。そこで問題は済まないからです。

そういう中で、今このエネルギー問題です。どういうことなのでしょう。今更ながらと思います。こうした討論を、原発やエネルギー問題をどうしてもっと早くやれなかったんでしょうか。いつも後出しですね。いつもこんなです。もともと前に、原発はなぜつくるのかということをもっと国民的総意の下に、国民的議論の下にすべきでした。いや、しないほうがもちろんいいんですよ。してはならないことなんですけども、順序が逆です。

こうして、もうのびきならない事態において、まるで放射能戦争の中に子どもをいけにえにしておいて、多くの犠牲を払わざるを得ない、この過酷な中に。そうして初めてやっと議論ですか。いっぱい場を重ねていくんですか。どれだけ時間を重ねるんですか。

そして、きょう来てみれば何でしょう。まるで空港のように、ああして危険物はないか。まるで私たち一人一人がテロの人間のような扱いを受けて、私は屈辱を受けました。本当にこれが国民的合意の下に、これから考えるぞ、真剣にやるぞということであれば、胸を張って、何もあんなことは必要ないじゃないですか。どうして、あんなことが必要なんですか。あり得ません。

ああいうこと自体が、何かこの会場の影の裏を物語るように思っただけでありません、私は。もっと堂々とやってくださいよ。私たちは、共になんとかしようと思っただけなんです。あなたたちを殺そうなんて思っただけでやしません。殺したって何の問題解決にならないんです。同じ命の立場に立つ者として、なんとかしようじゃありませんか。原発はそういう問題でし

ようが。まず、そのことをお伝えします。

そして、私はいろいろ学びました。この原発がなぜこの福島に用意されたかというのは、単なるエネルギー問題ではないということを学びました。政治的、経済的、分かりやすいから言いますが、1%の利権の上に立って、それも日本だけではなく、アメリカという国の1%の人たちの意思によって、そして、刻々とひそかに準備されていた、その構造に立って、戦争へ戦争へ向かう、核が入ったそうした原発だったというじゃありませんか。私の勉強が間違っているかは、どうか分かりません。

例えば、こういう問題にも、この次の議論では話題に挙げてください。なぜ原発をつくったかということをもっともって国民的に知らせてください。全て隠されて進むのではなくて、いろいろな事実を挙げてください。なぜ原発が用意されたのか。そして、またなお、この時代においても再稼働を進めるのか。もっともって、国民的にちゃんと本当のことを教えてください。

そして、もう一つ言います。背広を脱いできてください。子どもたちを連れてきてください。肩書を抜いてきてください。生身の人間として話し合しましょうよ。命とはそういう問題です。原発も、環境も、エネルギー問題も総合的な問題です。もっと裸になって、もっと切羽詰まった気持ちで議論しましょうよ。何回も何回もしましょうよ。それでも刻々被ばくしている中입니다。そうした深刻な問題であることを、私はもっと感じてほしいと思います。お願いします。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では14番の方お願いします。

◎意見表明者14

Nと申します。住所は福島県双葉郡富岡町というところにあります。今も、ご存じのとおり警戒区域に指定されていますので、家に帰ることも、職場にも、そしてふるさとに帰ることもできないまま、避難生活を続けています。

まず、今回、私がここで意見表明をしたいと思ったきっかけですけれども、先月、同じ意見表明の方で、福島原発事故の放射能による直接的な影響で亡くなった人は1人もいないという発言をメディアで聞いて、怒りを覚えたというのが1つのきっかけです。

私も原発事故の避難者の1人ですから、避難者の状況はよく分かっているつもりです。どれほど多くの人が避難中に亡くなったか。避難直後に亡くなったか。そして、今もバタバタと倒れて亡くなっているか。本当にあんなに元気な人が、あんなに笑顔だった人がという、信じられないぐらい多くの人が亡くなったり、病に倒れたりしている情報を聞かされています。本当に悲しい思いを日々しています。そして、借り上げ住宅や、仮設住宅、そして、一時帰宅の際でも、将来を悲観して自ら命を絶つ人が後を絶ちません。本来であれば

失わなくてもよかった命、もつとつと長生きできた命が失われているということを、まず申し上げたいと思います。

無理もないと思います。ある日、原発避難者は、突然何の説明もなく避難をさせられ、故郷を追われ、そしてあすにでも帰れるだろう、すぐに帰れるだろうと思って避難したんです。ところが、いまだに故郷にも、家にも、実家にも帰れず、家族ばらばらなまま生活している。そして、いつ帰れるかも分からない状況で今、過ごしています。そういった状況の声が全然届いていないというのが、本当に日々思うところでございます。

思えば、原発事故が昨年あって、私たちもこれで大変なことが起こってしまったと思っただけなんです。私も避難所を転々として、関東の妹の小さなアパートに家族で避難して、身を寄せ合いながらテレビ画面を見て、大変なことが起こってしまった。もう帰れないんじゃないか。もう自分の人生を全て否定されたような思いを抱きましたし、両親も泣いていました。そして、もう日本も終わってしまうんじゃないかと思った方も多いと思います。また、これによって、ここから大きく日本は変わっていくだろう。歴史の転換期になるだろうと誰もが思ったはずなんです。気付かされたはずなんです。

ところがどうでしょうか。もう何事もなかったように、結論ありきで全てが進められているような気がします。原発避難者に対しても風化をさせられるようなかたちで進められています。がれきの処理も決まっていないうし、燃料の処理の仕方も決まっていない。そして、原子炉建屋の内部の状況さえ、いまだ正確に分からない状況であるにもかかわらず、なぜか結論ありきで原発の再稼働がされて、また区域の再編等がされています。

今回のエネルギー政策の聴取会についても、そういった原発を失えば、経済的に本当に切迫してしまうというような結論ありきで進められているように感じました。原発事故の賠償の費用とか、除染の費用を考えれば、はるかに経済的に負担を強いるのは原発推進のほうだと思います。

そして、確実に核のごみを10万年もの長い未来に残してしまう。われわれの子どもの子孫の子孫の子孫の孫の孫の孫の孫のその先まで、本当に人類があるかどうか分からない時代まで、核のごみを残してしまうという現実がありますし、一度事故が起こってしまえば、福島原発を見れば分かるように、原状回復は全くできない。福島全体を見てもらえば分かると思いますけれども、本当に皆さん健康被害におびえ、そして、家族もばらばらにされて、あつれきも生じています。一度事故が起こってしまえば、原状回復は不可能だということがお分かりだと思います。

であるならば、やはり原発ゼロから議論を始めるべきではないでしょうか。まず、原発ゼロから始めて、そこへ向かって何が出来るか。どういった方策があるかというのを議論すべきではないでしょうか。

これは世界中が注目している選択だと思いますし、歴史が注目している選択だと思います。そして、いろいろ代替エネルギーの問題とか、雇用の問題とか、いくつもハードルはあると思いますけれども、われわれ日本人の科学技術、英知を結集して、そこに向かっ

ていけば、必ず成し遂げられると信じています。

きょうは、私は原発避難者の1人として、そして福島県人の1人として、そして人類の歴史のほんの一部として発言させていただいたつもりです。ご清聴ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では15番の方、お願いいたします。

◎意見表明者15

はい。田村市から来ましたJと申します。よろしく願いいたします。

前半の最後ということで、きょう今、上に並んでいらっしゃる皆さま方が、ほとんどゼロということですので安心してあります。同じ仲間だなと思ってあります。たぶん今、会場にいらっしゃる方もそうだと思いますけれども、これがたぶん福島の声だと思います。

そんな中で、やはり皆さんもおっしゃっていましたが、大飯原発の再稼働というのは、福島県民に対して、失礼だったんじゃないかなと思います。

ただ、今回国民の意見をじかに近くで聴くという機会は本当にいいことだと思います。逆に福島県に関しては、各市町村で、皆さんだけではなくて、東北電力、各メーカー、それから、研究者たちが、きちんとみんなの声を、もう罵声を浴びせられると思いますけれども、聴くべきだと思います。そういう場がこれからあってもいいと思います。あるべきだと思います。そうしていかないと、政治も国も何も変わっていかないと思います。

きょうは、皆さんが言いたいことをほとんど言ってくださったので、ちょっとエネルギーに関して言わせていただきますけれども、私もゼロシナリオです。私も生まれたときから、当たり前原子力の電力があったので、当たり前使っていて、それがこんなに危険なものだとは、事故が起きるまで知りませんでした。事故が起こったときも、何が起きたのか分からず、何が体に悪いのか分からず、もう必死に調べました。

ことしの冬、2月です。たまたま津波被害者の方の支援とともに、東京に行ったときに出会った映画なのですけれども、先ほど10番の方は、『100000年の安全』とおっしゃいましたけれども、『イエロー・ケーキ クリーンなエネルギーという嘘』をご存じでしょうか、大臣。じゃあ、後でパンフレットをお渡ししますので、ぜひ官僚の方たちと上映会をなさっていただきたいなと思います。

これは、ドイツのドキュメンタリー映画になります。これは、原子力の元になるウランの採掘現場のドキュメンタリーになります。私も知らなかったのですけれども、原発のウランを精製するために、約1トンの鉱石物を採ります。1トンの鉱石物を精製して、やっとウランが採れるのが、ご飯茶わん1杯分ぐらいなんです。それで、大量の土砂と水が放射能で汚染されて、人目の付かないところに放置されている。それが、カナダ、アメリカ、オーストラリア、アフリカになります。

この『イエロー・ケーキ』で見ていただくのは、オーストラリアだったかな。日本人にウランを売らなくちゃいけないから、アボリジニの人に「どけ」と言っている映像もあるんです。それぐらい地元の人を。今回も福島はそうですけども、昔から住んでいたところをどかさされるのって、どんなにつらいか、嫌なことか、すごく分かります。

そういう中でできたエネルギー、まず精製のときから地球を汚しているエネルギー、全然クリーンではない原子力発電所。それで、原発の発電をしているときに冷やすときに出した水。人体には影響はないと海に流していますけれども、それを流しているために、もしかしたら、今の集中豪雨だったり、台風の流れがおかしかったり、あの原因というのは、結局海の温暖化が原因といわれていますよね。その原因をつくっているのは、やっぱり人間の原子力とかも少しはかかわっているのではないかなと、ちょっと思います。

温かくなった放射能を浴びた原発を冷やすために使った水を海に流していて、何年か前ですけれども、そんなに興味なかったんですけれども、たまたま海の貝を研究している人の話を聞いたときに、原発付近の貝がメス化しているというのをちらっと聞いたことはあります。それに、東北にしては珍しく熱帯魚がいるというのは、「うそでしょう」とそのときは笑って聞いていましたけれども、いろいろ調べていくと、もしかすると東北の海に熱帯魚がいるというのは、その部分だけですけれども、本当だったのかなと、なんとなく思いました。

そうやって見えないところをどんどん汚して行って、なおかつ精製のときに地球環境を汚し、電気をつくっている時点でも海を汚し、そしてまた電気を使い終わった時点でも、ゴミがどうしようもなくなっている。今、六ヶ所村を動かせば、クリプトン85が大気中に大量に出ます。大気汚染にもつながると思います。

だから、どこが原子力発電がクリーンなエネルギーなのかなとちょっと思います。いかにもこのデータ、先ほど渡されました3つのデータの、各シナリオにおける原発の構成の4ページで、いかにも、ゼロシナリオを選ぶと、火力発電が中心になって、化石燃料が使われて地球上に悪いですよというアピールがされています。アピールがされているように、私には見えます。これは違うと思います。これは、もう各個人が本当に太陽エネルギーだったり、バイオマスだったりを使えば、うまく地球を活用していけると思います。それをきちんと説明しないで、いかにももう火力発電になってしまったら、地球を汚すよ。じゃあ原子力は地球を汚さないのかといたら、全然うそっぱちでした。

ぜひ機会がありましたら、自主上映で『イエロー・ケーキ』をなさってみてください。本当に分かります。この採掘現場で仕事をしている人たちも、危ないものだと知らずに働かされて被ばくしています。それも事実です。

こういうエネルギーを今後本当に日本で使っていったいいものなのかどうか。福島県民がこんな思いをしたのならば、逆に世界のリードを取っていただいて、真っ先にやめるべきではないでしょうかということをお願いいたします。

以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。以上で前半の部、15名の方からのご意見表明をいただきました。ここから、まだ言い足りないこと、それから新たにほかの方のご意見を耳にして、こういうことを加えたいというようなことがあれば、挙手をいただきたいのですが、かなりお時間が押しております。司会として、ちょっとつらいところなんですけども、きょう率直に申しまして、大阪や広島など過去の会場で、シナリオのいろいろな異なる意見の方同士のディスカッションというのは、この場でかなりあったのですが、きょうは本当はかなり同じ方向を皆さん向いていらっしゃる。ここは、本当に議論というよりも、言い足りないことだけお話しただいて、なるべく時間を短くして、後半の方のお時間を確保したいと思います。

そのうえで、先ほどの9番の方から、そのほか手をお挙げいただければ、今一言ずつ。では、今と逆順でまいりましょう。じゃあ9番の方から、若いほうの番号へ向かってお願いします。

◎意見表明者9

はい。郡山市のです。先ほどは郡山市内の団地を例に子どもたちの放射線被ばくをしている状況が放置されている、こういう無責任な国に原発を動かす資格はない、そういう論点で組み立てたわけです。

もう1点、2030年時点での原発の依存比率です。そういう前提で、この意見の聴取会、この会場は別ですが、そういう前提に立っていると思うのですが、2030年の経済状況です。この経済規模が、果たして成長は今よりも大きくなっているのか。あるいは現状維持であるのか。あるいは、今の経済よりも縮小しているのか。そういう前提が全く欠けているんです、不思議なことに。

国家戦略を立てるのに、ほぼ20年後ですよ。17、18年後。このときの経済がどうなっているか、ビジョンを示していないわけです。私の意見でいえば、経済規模は必然的に減っているはず。というのが、2000年代に人口がピークに達して、もう既に縮小局面に入っています。

これから、原発事故の影響もあって、人口はどんどん加速的に減少するはず。ですから、経済が縮小するということは、エネルギー消費も減るはず。ですから、原発を廃止すれば、石油の使用量は減る。これはうそです。原発を廃止しても、たった今、現在の石油使用量は減っていくはず。ですから、その中で、原発を動かすのは新しい時代が目の前に迫っているのに、古い体制にしがみついて、まるで、そのまま減ってしまった恐竜の末路を見るようなことになると思います。

私たちとしては、賢い哺乳類になって、新しい時代のエネルギーの使い方、これを真剣に考えなければならぬと思います。もしも、原発に固執していたら、そのチャンスを失ってしまいます。ですから、今から新しい時代に適応できる哺乳類になって、エネルギー消費の効率化です。効率化技術をどんどん改善しなければならぬと思います。ありがとう

ございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

それでは続いて7番の方。

◎意見表明者7

すみません。原発とは直接関係がないことかもしれないのですけれども、福島県民から言いたいことを、申し訳ないですけれども、この場を借りて言わせてください。

残念ながら、福島県産品、福島県民、汚物のように扱う人がいます。悲しいことです。福島県民は触れたからといって、放射能がうつるわけではありません。そのことを全国の人たちには分かってほしいと思います。私の好きな歌、福島県を歌った『福の歌』。

いつか君がこの町で暮らしたいと言ってくれたら幸せだろう。君の故郷になれるよう、まずは僕が動きだそう。

福島県民は頑張りますので、日本全国の人たちも、福島県をどうかよろしく願います。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では、続きまして5番の方、願います。

◎意見表明者5

最後に一言だけなんです、一言、二言になります。一つは、福島の状況は、福島の人の認識と、福島県外、日本国内なんです、認識のギャップをまず埋める努力を、われわれがしなければならないのか。国がしなければならない。

これは、なぜかといいますと、国は冷温停止状態というような話で、原発事故は収束したと。これは、あるとき、東京に仕事のことで行ってお話を伺ったならば、福島は何も変わっていないじゃないかと。どうしてですかと。毎日、テレビで4号機の映像、第一原発の映像を見ていたら、何も変わっていないじゃないかと。あれが地上から消えることが福島の出発点だと言われたんです。ということは、40年間には出発できない。もしそういうことであれば、そのギャップは国の責任をおいて埋めていただきたいということでございます。

それと、原子力は大変導入当時は高度な技術だったようなんですが、今はローテクだという方もいらっしゃいます。これがどういうわけだか、ここのちよつとよさそうな人、それを専攻した人にとっては、相当なハイテクのような認識をいまだに持っていらっしゃる。私は、知恵の暴走にはなってほしくないということをお願いしたい。技術は必要です。今後40年、50年、原子力に関する技術は必要です。だけど、暴走はしてほしくないということです。

あともう1点は、きょうはこの会場で、私もこういうところで意見を述べさせていただく機会をいただいたことを大変嬉しく思っておりますし、今までのもやもやとしたものが少し晴れたような気がしております。それで、私たちの思いは、きょうここにおいでの大臣をはじめ、官僚の皆さま方、またネットでたぶん見ている国の関係者、責任ある方、全ての方々に伝わったと思います。全て私たちは本音で手の内をさらして語ったと思っております。ですから、今度は国が本音で、私たちに問いかけていただきたいと思っております。

以上でございます。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では、お待たせしました3番の方をお願いします。

◎意見表明者3

先ほど十分に意見を申し上げられませんでしたので、再度申し上げます。

最近、枝野さんの発言の問題で、よく枝野さんがぶれているということを報道されていると思うのですが、僕の想像なのですが、枝野さんとしても本当は原発を廃止したい。たぶん、ほとんど多くの方が、経済的リスクを考えなければ、一切そういう余計なことを考えなければ、原発がないほうがいいというふうに思っていると、僕は思っているんです。なので、原発を廃止することによるリスクを、いかにこれから少なくしていくかということが、これからの政治的努力にかかわってくるのではないかと思います。

あと、とにかく明確な情報をしっかり出していただいてほしいということをお願いいたします。SPEEDIの問題もそうですし、いつも情報が遅い。情報が合っているのかも分からない。国民は多く不信感を抱いていると思うのです。オープンに議論することが、これからの日本のためにもなると思いますし、ここで明確に方向を決めて、国が引っ張っていくことで、日本がまた世界をリードできるようになっていったらいいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

それでは以上をもちまして、前半の部を終了とさせていただきます。

ここで10分程度の休憩を挟みたいと思います。大体、今のお時間ですから、5時5分前をめどに後半を再開したいと思います。皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

前半の15名の皆さま、本当にありがとうございました。

(休憩)

◎司会者

それでは間もなく始めさせていただきます。間もなく後半の部、始まります。お待ちください

ご案内いたします。後半の部、始めさせていただきます。まだロビーにいらっしゃる皆さま、どうぞ会場内へとお願いたします。

◎司会者(下村審議官)

それでは、ほとんどロビーからお戻りのようですので、後半、始めさせていただきます。それでは引き続きまして、ご意見表明番号 16 番から 30 番までの皆さまにお願いいたします。

では、16 番の方から、よろしくお願いたします。

◎意見表明者 16

福島市の大森地区に住んでいる P と申します。半世紀前は髪がふさふさした青年だったのですが、今はこういった状態です。今、この場所に立たせていただいていること、個人の意見を発表させていただくことに大変感謝しております。ありがとうございます。

原発事故当時は、私は一時、孫娘を連れて県外に避難した苦い経験を持っています。現在、私のうちは小さな庭なのですが、平常時 0.5 ミリマイクロシーベルトです。庭の隅のほう、雨水がたまるようなちょっとコケが生えるようなところは 1.5 あります、非常に高い数値だと思います。

それでは、私の考えを述べさせていただきます。

私の考えは、原子力発電は 2030 年を待たずして、大飯原発の発電所以外は再稼働はゼロだと思います。将来的に原発はゼロでいいと思います。その理由として、原発は 100%安全かということです。これは大変疑問に思います。最近特に心配している東南海地震、関東地震、それに伴う大地震、原子力発電所の真下にある発電所(断層)が疑われていますが、全国にある老朽化した原子力発電所の設計は、構造的、環境的において本当に安全なのでしょうか。耐え得る建築物なのでしょうか。

第 2 に、使用済み核燃料の問題です。六ヶ所村の再処理工場は、97 年完成の予定が技術的問題でもう 18 回も延期されております。核燃料の使用済み保管は、既に 1900トンを超えまして保管能力はもう限界の状態になっております。高速増殖炉の事故、プルサーマル計画の行き詰まりと問題は山積です。

第 3 に、使用済み核燃料の最終処分方法をどうするかということです。それと、最終処分場です。これもまだ決まっていません。恐らく日本で引き受けるところがあるとは思えません。

第 4 に、ひとたび原発事故が起こると、今の福島を見てください。まち、村、部落、人々、家族、みんなばらばらです。1 年 4 カ月たっても復興の兆しは全く見えません。除染も進

んでいません。除染の効果も期待したほどではありません。最近の調査で、学校が再開される状態になっておりますが、元の学校に戻らないという生徒が 70%を超えています。そういうアンケートの結果です。

子どもが戻らなければ、まち、村に子どもがいません。村はどうなるのでしょうか。子どもがいません。生まれる命もありません。村はどうなってしまうのでしょうか。福島で、ウクライナの女性医師のエフゲーニャ・ステパノワという医師の講演会を聞きました。そのときの最後に、低放射線量被ばく、これはずっと長い年月を見て注意しなければならないと、何度も何度もおっしゃっていました。

最近の NHK スペシャル、報道によりますと、チェルノブイリ原発近くにあるまちの検査センター、アレクセイ医師の資料報告によると、事故後 25 年たっていますけれども、25 年間の累積被ばく量、15 ミリシーベルトから 27 ミリシーベルトを被ばくした人の調査によりますと、心臓病、白血病、血管の病気が増加しているということです。

ウクライナの内分泌代謝研究所のテレシェンコ医師、この方はヨウ素の被ばくによる甲状腺がんをいち早く論文で発表した方です。この方が最近、なぜか 30 歳の人に甲状腺がんが増加しているという発表です。ヨウ素はもう既に消滅しているはずです。30 歳ということは、ウクライナの原発事故当時、10 歳前後の人々です。この方々に甲状腺がんが大変発生しているということです。そのことを非常に懸念しております。

以上の理由で、私は原発は 2030 年を待たずして早い時期にゼロにするべきです。

では、原発で補っていた不足分をどうするかということですが、第 1 に風力発電、陸上発電といういろいろ方法があります。陸上の風力発電型は、もう既に福島県の布引高原で実用化されております。現在 6 万 5900 キロワットの電力を生み出しています。海上型は海に浮かぶ発電所。将来的に原発 1 基分相当の 100 万キロワットの発電が可能なプロジェクトが、既に始まろうとしていることです。

第 2 に太陽光発電。被災地の農地、かんがいを活かした大規模ソーラー発電。ビームダウン式太陽光発電の組み合わせ等で原発 1 基分の発電をするということです。

◎司会者(下村審議官)

申し訳ございません。そろそろおまとめに入っていただけますか。申し訳ございません。

◎意見表明者 16

はい。

第 3 に水力発電。簡単に言います。水力発電、地熱発電、バイオマス発電、これらの発電を組み合わせ、日本人の高い技術と優れた能力を持ってすれば、原発不足による発電は十分可能だと思います。

この方法を、政府がいかに向転換して、原発を廃止するかという決断だと思います。今まで政府は何回も、薬害事件、公害事件でいろいろ問題を起こして、いまだに完全に

終結していません。そういった過ちを何度も何度も繰り返しました。今度もこの原発事故でそういった過ちを犯して、後々30年、40年、100年、未来の子どもたちに問題を残さないでください。前の過ちを学習してください。

私が言いたいのは、原発をゼロにして、孫の、ひ孫、その孫の時代に安心して生活ができるような世の中にしてください。

以上、私の考えです。ありがとうございます。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

それでは17番の方、お願いします。

◎意見表明者 17

福島市から来ましたQといいます。会社員です。きょうは平日ですので、仕事を休んでまいりました。時間が2、3分オーバーするかもしれませんが、大目に見ていただきたいと思います。

きょうは仙台でのやらせとは違って、皆さん素晴らしい意見ですごく感動しています。全国原発立地地域の皆さんにきょうの録画を見ていただきたいと強く思います。細野大臣、仙台ではどうも。

言いたいことは皆さんおっしゃっていただいたので、これは終わりにして、原子力規制委員会の人選の議論をしたほうがいいんじゃないかとも思っております。どうして原子力村の方々が規制委員会になるのでしょうか。笑ってしまいます、本当に。しかし、せっかくですから、ない頭を絞って二日ぐらいかけて書いてきたので、政府のお偉い方も前に座っていらっしゃいますからちょっと緊張してしゃべれないと困るので、書いてきたやつを棒読みさせていただきます。

大飯原発再稼働の際、野田総理が「電力が足りない。国民の生活を守る」と言いました。さもエネルギー供給が切迫しているような説明でしたが、関電は、大飯の再稼働直後に火力発電所を止めました。8基も止めました。電力供給を調整しておきながら、計画停電の脅しはまだやめません。どういうことでしょうか。

原子力村の方々の考えることは、われわれには到底理解できません。関電の経営陣も、原発を動かしたいのは「電力不足とは関係ない」とはっきり述べております。お願いです。電力足りないデマはたくさんですから、もうやめてください。

それでも節電が必要とあらば、テレビを消すように広報してください。ひどい思いをしてエアコンを消すより、1.7倍も効果があるそうです。ここ最近の猛暑でも電力使用率には余裕があります。きのうも東北で12%程度、東京でも26日、35℃と、夜間でも25℃以上のときに10%余裕がありました。省エネ住宅とか太陽光パネルの設置など必要ありません。蛍光灯をLEDに替えてください。テレビを消してください。それだけで十分対応でき

ます。前回、仙台で1番の方がおっしゃっていた大げさな節電デマや脅しは、もうやめてください。

今までの聴取会で、原発容認派の意見の根拠はどれも経済性です。しかし、話はそんな段階まで行っていません。けさ知りましたが、東電さんは液化天然ガスを対米販売価格の9倍で購入し、火力の燃料費がかさむと言っているそうですね。それをどこかの大臣さんが、調べもせず値上げを認める。政府ぐるみのブラック企業ですか。アメリカ・ゼネラル・エレクトリックのジェフ(・イメルト)CEOが、「原子力発電について正当化するの大変難しい。世界の多くの国で価格が安いガスによる発電に移行しつつある。ガスと風力か、太陽光発電の組み合わせに多くの国が進んでいる」と言っています。お願いします。火力発電が高いというデマはやめてください。

政府のでたらめはこの資料の5ページにもさらっと書いてあります。共通事項のところです。「原発事故の甚大な被害や地震国の現実を直視し、徹底した安全対策の強化によってリスクを最小化する」。どういうことでしょうか、これは。誰もが知っているように、今の政府は今回の福島事故の被害はもちろん、地震国の現実も全く直視しておりません。政府は、福島の汚染のデータを隠蔽し、その実態を矮小化して、風評被害や絆という精神論で安全ピーアールにのみ力を入れてきました。

頑張れ福島と言われています。何を頑張るのでしょうか。事故をなかったことにして頑張れということですか。さらに大飯原発の活断層の問題。地質学の専門家が危険性を訴えているのに、その声を無視して今も政治的に原発を動かしています。ようやく政府により活断層の調査が必要だと関電に指示されましたが、なぜ調査が終わるまで原発を止めないのでしょうか。電力が足りないわけでもないのにです。それでも、事故の被害や地震国の現実を直視しているといえるのでしょうか。

もう1つ、「使用済み核燃料や放射性廃棄物の発生を抑制することにより、将来世代への負担を減少させる」。どういうことでしょうか、これは。使用済み核燃料の発生を抑制するということは、原発を稼働させないということでしょうか。それとも、再処理施設の稼働でしょうか。再処理施設は計画どおり稼働していますか。計画当初から今現在までの実績、これまでの予算をこの資料に明らかにできますか。巨額の税金を食いつぶして、とても表沙汰にできないほどのものすごい汚染を発生させているじゃないですか。

これからも原発を稼働させるということは、今までどおり研究費と汚染物質を垂れ流すことです。できもしない再処理に税金を使うということです。やめてください。

原発の反倫理性は、過疎地への押し付け、被ばく要員として使い捨てられる労働者、その犠牲による恩恵は都会の人間が今まで味わってきました。このようなくそつきの、事なかれ主義の政府に、原発の再稼働をどうして認められるのでしょうか。私は即刻廃炉を求めます。

物事には順序があります。事故の後始末もできないのに、どうして再稼働なんですか。7月15日の「さようなら原発10万人集会」で大江健三郎さんが言いました。「700

万人を超える脱原発署名を藤村官房長官に提出した翌週に大飯原発再稼働が決まったことで、私たちは侮辱の中にいます」と言いました。このような国民の意見を聞いていただけの会を開いていただいて大変感謝しておりますが、国民の声は本当に届くのでしょうか。この7割以上、きょうの会では10割、沖縄でも10割、原発依存度ゼロという意見があります。この民意は反映されるのでしょうか。それとも次の事故が起きるまで国民は侮辱され続けるのでしょうか。

私の意見は30年後に原発0%ではなく、原発の即刻廃炉を望みます。以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では、18番の方、お願いいたします。

◎意見表明者 18

福島で小学校の教員をしております、Rと申します。震災以降の学校現場の様子とか、子どもの様子を話しながら、私の意見、もちろん即刻廃止の意見ですが、その意見を述べていきたいと思えます。

私の勤務する学校は、震災後休校状態となりましたが、終卒業式は行う予定であり、準備を進めていた矢先に、原発事故による汚染が予想以上にひどいということで、中止となってしまいました。そのとき以来、卒業生には会っておりません。

その後、入学式は予定どおり行われましたが、1学期間中は外での活動は一切できなくなりました。学習では、理科の、畑でのヘチマやジャガイモの栽培も中止。米の収穫体験もできませんでした。体育も体育館だけでの実施で、子どもたちは思い切り走ることはありませんでした。休み時間も教室に閉じ込めたままでした。また、暑い中、プールにも入れずに過ごしました。

そんな生活が4カ月間も続くと、子どもたちの中にもストレスがたまり、いらいらしてくる子どもが出てきました。その後、莫大な費用をかけ学校の除染が行われ、なんとか校庭での活動はできるようになってきましたが、それでも時間制限付きでした。1学期にできなかった運動会をなんとかやりたいと思っても、親の不安を考えると外では行えず、体育館での実施となってしまいました。そんな中で気が付いたのですが、子どもたちの走りが大変きこえないと感じました。ことしの運動会は外でやったのですが、転ぶ子が大変多かったです。

また、子どもが本来自然との触れ合いの中で学ぶべきものが学べなかったことによる経験不足が、大変心配であります。子どもには学ぶべき時期というものがあります。学ぶべきときに学べなかったのは大変大きなことなのだと思います。子どもにとってこの1年5カ月は、大人の1年5カ月に比べ大きな比重を占めており、大変重要な時期だったはずで

このように子どもたちにも大きな犠牲を強いいた原発事故を深く反省し、即座に廃炉していただくことを望みます。

また、これからの子どもたちへの健康被害も大変心配です。ガラスバッジによる積算量の測定や、ホールボディーカウンターによる内部被ばく検査、甲状腺検査も行われました。でも、学校においてこのようなことが行われるのはとても異常なことです。病院のレントゲン室と同じくらいの放射線管理区域内で生活し続けている今の私たちも異常ではありません。

新聞報道では、何パーセントの子どもの尿にセシウムが検出されたとか、甲状腺に異常のある子どもが何パーセント見られたという記事が載っていることがありますが、必ずその後には「健康には影響ありません」とのコメントが付いています。本当に将来にわたって子どもたちの健康に影響はないのでしょうか。全くゼロとは言い切れないのではないのでしょうか。

私たちは、外で教育活動させているときに放射線量を気にしながら、線量計で測定して行うようになってしまいました。私たちは、将来の子どもたちの健康に責任が持てるのか。今この活動をさせて大丈夫なのかと大変不安であります。原発再稼働を決定してしまった人たちは、いつまで続くか分からないこの不安の中で暮らしている私たちのこの心情を考えたことがあるのでしょうか。

学校では、総合的な学習の時間に、さまざまなことを子どもたちが主体となって広く探求していきます。その中には環境の問題も含まれています。今まで原発の危険性についてはほとんど触れずに、二酸化炭素を排出しないクリーンなエネルギーで、安全対策も十分しており大丈夫だと言ってきたはずの原発が、この福島豊かな環境を取り返しの付かない状態にしたのです。

子どもたちに環境のことを考えさせる際に、この事実から目を背けるわけにはいかないのです。今後も原発を推進していくべきであると論じる人たちは、この福島の状況を子どもたちにどう説明するつもりなんですか。想定外のことだったからでは済まされない問題です。

文部科学省が出した『放射線等に関する副読本』がここにあるのですが、ここにあるような、本当に放射線の危険性をまるで軽視した内容には到底納得できるものではありません。事故後の処理も思うように進まない。その処分方法や、処分地も決まっていない核廃棄物を大量に出し続ける原発がクリーンなエネルギーであるとは、到底子どもたちには教えることはできません。

エネルギー政策の大転換を図る以外に、子どもたちにこの状況を説明はできないのではないのでしょうか。これだけの大きな犠牲を払って何も変わらないのでは済まされません。子どもたちに語りかけるときに、福島原発事故により原発の不完全さが明らかになり、これ以上原発に頼ったエネルギー政策は、私たちの生活を不安の中に置いたままである。原発から再生可能なエネルギー政策に方針を転換し、日本全体でこの再生可能エネ

ルギーの開発を進めていくために、知識や技術を集中させていけば必ずできるはずであると語りかけていくべきなのだと思います。そのことにより、新しい産業や、雇用の創出も出てくるはずです。

肝心なのは、高い目標を持って取り組んでいくその姿勢だと思います。今まで原子力政策にかけてきた予算や、政府の情熱を再生可能なエネルギーの確立に使うべきではないでしょうか。

最後に、子どもたちにも教えています。間違いを犯したならば素直に反省し改めるべきである。今こそ子どもたちに大人の潔さを教えていくべきだと思います。

私の意見発表を終わります。ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では、19 番の方、お願いいたします。

◎意見表明者 19

私は、不安を抱えたままの第一原子力発電所北西 60 キロの福島市に住んでいる S といえます。エネルギー政策について、原発ゼロを主張しています。

避難している方に話を聞く機会が何度かありました。年配の女性は「4 世代で暮らしていたけど今は別々の避難所に暮らしているんだよ。戦争のときは横須賀の海軍工兵の事務員だった。戦争に負けるとずいぶん前から分かっていたんだよ。あのときと同じだ。国や東電は情報を隠している」と。

もう 1 人の女性は、「戦後、大陸からやっとの思いで引き上げてきました。今度は原発で避難しました。また棄民にされた思いだ。もう力が抜けて出掛けられない。国も東電も 2000 年に 1 度の震災を口実にするな」という怒りの声でした。県外に避難した方は、「まだ一度も家に帰宅していない。着る物は全て避難所で頂いた物。避難していると報道を通してしか福島のことを分からない。国民に福島のことを報道で知らせてほしい」という切実な声でした。

1 年 5 カ月たった今、避難している人たちの現状がよくなったと思いますか。慣れない土地で交通事故で命を落とした人、振り込め詐欺に狙われそうになった人、病気を悪化させた人と深刻さを増しています。避難している 16 万人の思いを受け止めずに原発を廃炉にする努力を惜しんで豊かな森や豊かな海を元通りに戻さないで、放射性物質をそのままにしたまま国は大飯原発を再稼働してしまいました。

毎日毎日原発事故で苦しんでいる国民が最優先なのではないですか。原発の北西 60 キロのわが家の芝生の放射線量は、1.56 マイクロシーベルトと高く、毎日が不安です。福島市の中では 3 番目に高い放射線の土地ですが、1 番、2 番と高い順に除染しているため、わが町内は来年になるそうです。除染は、思ったほど放射線量が落ちず、な

かなか進みません。

近くの公園だけは除染が済みましたが、問題点もありました。公園の除染は、除染した土を埋めるために掘った穴から水が染み出ている、ポンプでくみ出して長い時間かかっています。そこにシートにくるんで埋めていました。放射能が地下水に溶け出さないか心配です。放射性物質は目に見えないやっかいな危険物だとつくづく思います。私の隣のうちは放射能の値が私のところよりも高いので、お孫さんたちを県外に避難させました。そして、庭の木を根本から切って除染しました。避難できない家庭では、運動させたいとき、放射線の低い場所に連れて行って遊ばせています。

先日、豊かな森に囲まれた会津の喜多方市で開かれた自然エネルギーについて話し合う会に参加しました。農業用水を使っての小水力発電や、猪苗代湖から水道の水を引いているのでその水圧を利用する発電をしたいなど、若者が発案して、専門家がそれに助言をしていましたが、水利権の問題、水道と電気利用と2つの権利を取得するには自治体の承認がないと県では受け付けないといったことなど、解決にとまどっていました。

その間に、大手の企業や銀行が自然エネルギーの買取制度を使ってもうけてしまわないか。福島県は後れを取ってしまうのではないかと心配です。地元の人たちが自然エネルギーで電気がつくりやすいように施策を進めていただきたいと思います。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では、20番の方、お願いいたします。

◎意見表明者 20

福島市に済んでおります T です。小学校の教員をしています。私もできるだけ早く原発がなくなるといいなと思って意見を述べさせていただきます。

今回の福島の聴取会は、さっき細野大臣もおっしゃったとお趣旨が違うということなので、私も子どもたちの現状を少しお話ししたいと思います。

今でも、福島県から県外に避難している18歳未満の子どもは約2万人います。特に福島第一原発事故による避難者は、自分の住んでいた場所に帰れず、いまだに不安な日々を送っています。きょう参加している方にもいらっしゃるようですが、昨年私が担任した子どもたちの中にも、双葉郡から原発事故で避難をしてきた子どもがいました。その子どもは、子どもなんですけど、もう自分が住んでいたところには帰れないと分かっていました。私はそんなことを言ったつもりはないのですが、もう帰れないんだというふうなことを、ほんとに子供心でもちゃんと分かっている、原発事故が、この子たち地元でどんな活躍をするのかな、そういう将来でさえも奪ってしまった。子どもたちの未来を奪ったひどい事故だったということ、もう一度認識しなきゃいけないなと考えているところです。

また、福島市に住む子どもたちは、毎日放射線による被ばくをし続けています。学校の校地内の除染は、先ほどの方もお話ししていましたが、昨年進められたので、現在 0.1 から 0.2 マイクロシーベルト毎時ぐらい下がって、校庭での活動がある程度できるようになりました。しかし、保護者や子どもたちの中には、今でも外での活動はやりたくない、出て運動するのもちょっと嫌だというふうな意思表示をしている方もいます。当然だと思います、通常よりは高いのですから。ましてや、子どもたちが通学している道路や側溝の除染は進まない状況で、高いところでは、きのうもほかの学校の方に聞いたらば、実は 100 マイクロシーベルトある所もあったんだよと聞いて、すごく驚きました。普通の「はかるくん」とかでは測れなかったからちょっと今まで分からなかった所だったようです。そのほかにも、森や山やそういう所は全く手を付けていない状態です。学校の線量を下げただけでは、子どもたちの被ばくは止められないというのが、今の現状です。

このような状況の中で、原発の安全性を訴えて大飯原発の再稼働に踏み切った政府の決断には、福島県民として本当に憤りを感じます。福島県では、原発の安全性に疑問を持つ人がたくさんいたにもかかわらず、原発関連の雇用の確保や、国や東電からの自治体への交付金など、原発を受け入れてきてしまった経過があります。30 年といわれていた耐用年数も、いつの間にか 40 年になって、プルサーマルまで引き受けてしまいました。こういう安全対策がしっかり行われなかった結果が、3.11 の大地震の後の原発事故です。

政府の事故調査委員会でも報告があったとおり、福島原発の事故は人災です。しかし、先ほど前半の方の話の中にもありましたが、名古屋市でのこの会の中で、「福島原発事故の直接的な影響で死亡した人はいない」という発言を聞き、ほんとに福島県民の気持ち、そして原発事故で避難した人たちの気持ちを全く考えていない内容だなど、ほんとに怒りを感じました。

双葉郡の沿岸では、原発事故のために津波避難者を助けることができなかったといわれています。病院からの搬送途中で亡くなった入院患者の方もいます。そして、避難生活を苦しんで自殺してしまった人もいます。避難者が体調を崩し亡くなった例も数多く報告されているということは、これらの亡くなった方たちは、原発事故で亡くなったことになるのではないですか。ほんとに、あの発言はきちんと謝罪してほしいと考えているところです。絶対謝ってほしいなと思います。

大飯原発の再稼働に対しても、大飯の地域の人たちは、反対したくても、原発が再稼働しないと生活ができないんだというふうにインタビューに答えている人もいました。2030 年のゼロシナリオ実現のためには、原発立地地域での原発関連以外の雇用の確保や、交付金の在り方など、受け入れてしまった地域が原発以外でも生活できるような基盤づくりが必要ではないでしょうか。再生可能エネルギーの開発や、それにつながる施設の維持管理など、新しい産業や雇用を生み、原発に頼らない地域づくりとなるはずです。

最後に使用済み核燃料サイクルのことなのですが、先ほど来、皆さん、ほんとに核のご

みのことについてお話をされていますが、このサイクルシステムは、破綻してしまっていますよね。今、原子力発電から出ているものは全て核のごみです。ロンドンオリンピックが今開催されていますが、出場しているサッカーの選手が練習したであろう、楢葉や広野のJヴィレッジも、今は第一原発の事故処理に向かう作業員の方たちの中継基地として機能していますし、放射性廃棄物の集積所にもなっています。すごくお金を投じてつくったのですが、そんなものはもう全然、芝生も伸び放題というふうに、きょうちょっとインターネットの画像でも見てみました。

原発を稼働する限り、核のごみは出続けます。置くところもなく、処理もできない、本当に負の遺産でしかないわけです。原発事故で被害に遭った子どもたちに、これ以上の負の遺産を残せません。私たち大人が決断するのは、原発に頼らないエネルギー政策の大きな転換です。2030年まで待たずに原子力による発電をゼロにすることは、子どもたちの未来に責任を持つことだと思います。

福島県でも、地熱発電や風力発電の研究や実施が進められています。新築の学校にはソーラーパネルが設置されていたりというふうなこともあります。原発事故後の福島県の現状をしっかりと受け止めていただいて、再生可能エネルギーの開発に日本の技術力を全て投入して、みんなで考えていきたいなと思っています。

これで私の意見表明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

では、21番の方。

◎意見表明者 21

先ほど、富岡町から2人避難者がいましたが、私も原発から8キロ弱の浪江町で専業農家として暮らしていました、Uといます。現在は6カ所目の移転先、桑折町の仮設住宅で浪江町民と一緒に踏ん張って暮らしています。うまく私の思いが伝えられるかどうか分かりませんが、今回、発言の機会をいただき、本当にありがとうございます。浪江町民の1人として、桑折仮設住宅の代表として、口下手ですので、文面を書きましたので、それを読ませていただきます。

今回、現実に原発事故が起き、国や政府、そして東京電力のお粗末な事故対応を、現実、十分見させてもらいました。原発事故以降、震災前のさまざまな議事録には、国や政府が、津波災害の可能性を知らながら何の対策もしないで、東京電力の言うなりに任せ、災害に遭い事故が起きてしまいました。

先ほどの何人かの方が言いましたけれど、自然災害に想定外はあり得ないと思います。東京電力では自ら想定外と言っていましたが、要するに事故を想定しなかったということは、法律用語で、これは未必の故意ですね。事業者として失格だと思います。自ら原子

炉の制御もできず、われわれ避難者に対する対応も満足にできない様を見て、国や政府、東京電力には、原子力発電所を稼働する資格や能力はないと思います。

原発は即刻廃炉。これは当然だと思います。もう二度と私たちのような、ふるさとを追われてさまよう避難者は出さないでください。なんで私はここにいなきゃならないんですか。私は口下手でしゃべれないんですけど、こういうふうにしやべられるようになったのも東電のせいかもしれませんけど、私たちの気持ちを理解してください。

もし今度同じような事故が起きたなら、もう日本列島の終わりだと思います。私たち福島では、東京電力の電気は使っていないんです。どうしても電気が足りないならば、都会で原子力発電所をつくって、発電して使ってください。そうすれば、送電設備も要らなくて経費も半分で済むんですよ。自分らが自然を壊して、私たちをいじめて、都会の人がぬくぬくと暮らしているのはちょっとおかしいと思いませんか。

私は、原発事故から1年5カ月近くたっていますけれども、まだ一步も前に進んでいません。震災前は浪江町でお米をつくりながら、東京電力じゃありませんけれども、安全で安心なうまい米をつくって全国に送っていました。儲からなかったけど、毎日毎日汗水流して農作業に明け暮れていたんです。

けれども、今度の原発事故で、もう浪江町で農業はできません。何げなく暮らしていたふるさと浪江町、あの山、あの川、あの海、あの土地で、あの人たちと魚や山菜、新鮮な野菜など、全てが匂を味わえたふるさと浪江町。先祖代々の土地を守り生きてきた人生の生きざま、これから後世に伝えるべき過去や未来も全て失い、先も見えず町民も皆ばらばらになってしまいました。こんなふるさとを失った悔しさ、分かりますか、あなたたちに。できることなら元に戻してください。ふるさとを返してほしい。それがわれわれ避難者の切なる願いです。

ただ、放射能をゼロにしても無駄です。放射能が何ベクレル以下だから住めと。住めないじゃないですか。文部科学省などの官僚の人たちや政治家にお願いがあります。まさか自分で住めない所に避難解除はしないと思いますので、今回避難解除準備区域として戻ってもいいという場所で官僚の人たちも仕事を行い、自分の家族と一緒に生活して、私たちにを見せてください。当たり前だと思いますよ。

何ベクレルだから帰れと言ったって、金が欲しいから言っているかもしれないけれども、住んでみて、私たちにを見せてください。国会も、避難解除準備区域でやってください。そうすれば、くだらない国民不在の政策論争などしないで、速やかに審議が進むと思います。私たちの理解も得られると思います。安全なところで、安全なと口先だけのことを言わないでください。

最後になりますが、先ほどは反対と言っていました、今回の将来のエネルギー・環境政策に関する国民からの意見聴取会、こんな11カ所で部分的にやっても、本当にわか実績づくりだと思います。アリバイづくりというか。一度原発事故が起きてしまえば日本全体の問題だと思うのですよ。私は先ほど反対しましたが、国民投票で国民に信

を問うべきだと思います。ただ、今回の国、政府、東電のお粗末な事故対応を国民は見ているので、結果はおのずと分かると思いますが。

ご清聴ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では、22 番の方お願いいたします。

◎意見表明者 22

皆さん、こんにちは。私は福島市内に住んでおります N と申します。年齢は 70、現在無職でございます。出身は長崎市でございます、3 歳の時に原爆中心地から 3.6 キロの所で被ばくいたしました。福島県にお世話になって 36 年になるんでございますが、まさかこの地で放射能の心配をしなきゃいかんということは夢にも考えませんでした。皆さんからいろいろご意見を言うておりますんで、言いたいことは山ほどあるんでございますが、重複してもなんですから、私の経験からちょっとお話を申し上げたいと思います。

おかげさんで、被爆いたしましたけども、こうして皆さんの前で意見を発表させていただくことは、それだけ幸運だったろうと思っております。実は、私会社は自動車メーカーに 37 年勤務いたしまして、そこで工場全体の設備管理ってことを主体に従事いたしました。その経験からでございますが、原発のいろんな安全性の向上ということでいろいろ言われてますけども、いくら設備的に安全を図っていても、最終的に設備が安全に稼働できるかどうかというのは、異常時が起きたときには人の判断でございます。これを適切にやるかやらないかで全然内容が変わってまいります。今、労働災害をゼロにしようということで皆さん非常に努力いただいておりますが、なかなかゼロになりませんですね。これは何でかと言うと、設備的に対応が取れても、最終的には人の要素が残つとるわけです。だからなかなかゼロにならないんですよ。

設備の管理も同じことございまして、原発でいろんな津波対策をやる、地震対策をやる、それからいろんな自動停止装置を完全なものにするといっても、異常が起きた場合に最終的な判断は人がやるんですね。それだけの人材がそろってるかということなんです。

皆さんご存じと思いますが、東京電力の第一原発はつまらんトラブルをやってきたんですよ。1 つ 2 つ例に出しますと、定期点検をやって、終わりに工具を原子炉格納容器の中に忘れてきたとか、それから一番大事な冷却水なんですけど、その水槽に枯れ葉がたまって、それをポンプが吸い込んで冷却水が一時停止したとか、そういったトラブルをやっておるんですね。これが私なんかの工場のメンテナンスに携わってる者からすれば、何でこんな素人のことをやるんだと、これで本当に原発はちゃんと運転できるんだらうかという危惧がありました。結果的には、大震災、津波の問題があったわけですけど、そのところが本当に、操炉をするための人材が育ったのかということも 1 つあるんじゃないか

と思います。それも含めて人的災害というんじゃないかと思っておりますね。

そういう観点から申し上げますと、これは特にものが原発でございますから、工場の設備が止まって限定的な被害が出るんじゃないやありません。原発という事故を起こしますと、もう皆さんご承知のとおりでございますね。そういうことから考えますと、やはり原発は危険だなと。

それから先ほど誰かおっしゃいましたけども、労働者が要するに被ばく覚悟で勤務されると。こういったことが本当に事業として成り立つんだろうかと考えますと、やはり原発は私は早い時期にやめるべきだと思っております。

私は原子爆弾の被害に遭ったわけではありますが、これは戦争でございますんで、ある程度自分なりにしょうがなかったと思うんでございますけど、この福島原発被害というのは、要するに国内の電力事業がもたらしたことです。これが国民を非常に苦しめてるわけです。そういうことから思っても、決してこの問題は二度と起こしてはならんことなんです。個人的に申しますと、私はもう老い先あまりございませぬけども、3回も放射能の心配したくないと思っております。そういう意味で、原発は可及的速やかに新エネルギーにシフトしていくということが大切じゃないかと思っております。

昨年の大震災で、われわれは自然の力というのは非常に大きいもんだと改めて再認識させられたわけでございます。この自然の力を最大限利用しない手は無いわけですね。幸いにして日本はそういった技術力を十分備えておりますから、先ほど話がありましたけど、そのこのほうにお金を投じて、そこをいかに早く立ち上げていくかということに政府は力を注いでいただきたいと思っております。

それから国民も、そういったかたちで自然に本当に立ち上がるようになれば、今回の東電の値上げみたいな理屈に合わん値上げは別にしても、本当にリーズナブルな値上げがあれば、ある幅においては国民も納得してこれを受け入れるんじゃないかと思うんですよ。そういう努力をやっぱりやっていたいただきたいなと思っております。

それから、2030年の原発比率が、いろんな15%とか10~25と出ておりますが、私は可及的速やかと申し上げましたけども、1つのステップとしては、例えば20年ぐらいに5~10%というのがあるんじゃないかと思うんです。そういった挑戦的な目標を掲げて、この議論をまとめていっていただきたいなと思っております。そういう意味で、時間はかかると思うんですが、8月末なんていう期限を決めた拙速な進め方ではなくて、ぜひじっくりご検討いただければと思います。

最後になりますが、細野大臣、名前出して申し訳ございませぬけども、「原発比率は15%辺りがいいんじゃないか」とか、あるいは福島県選出の代議士が「40年にはゼロにしたい」とか、そういうお話を新聞報道で拝見するんでございますけども、こういった今国民的な議論がなされてる中で、こういう数字が出てくるというのはちょっと理解に苦しむと思うんです。いろんなことがありますけど、先ほどかたちをつくるのがやつのような話がありましたけど、結論ありきでなくて、この意見聴取とかその他の趣旨を十分活かしていた

だいて、その辺を踏まえた議論をぜひお願いいたしたいと思います。終わります。ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では、23 番の方お願いいたします。

◎意見表明者 23

西白河郡矢吹町から参りました Y と申します。仕事はシステムエンジニアをしております。今、今年の 3 月から町会議員のほうもさせていただいています。

私は、この 3 つしかないシナリオの中からゼロシナリオを選択しました。しかし、2030 年にゼロということではないんです。すぐにでもゼロにするべきであると考えています。なぜならば、今まで皆さんがおっしゃった理由そのものからです。昨年の東日本の大震災をきっかけに起きたこの福島第一原発の事故で、絶対安全だと言われてきた原子力発電所がメルトダウンをして、いまだに詳しい原子炉の状態や、どの部分がどのように壊れたかというメカニズムさえ明らかになっていない中、どうして原発を動かし続けることができるのか私には理解できません。

過大な電力需要の見積もりによる電力不足を理由にして再稼働を強行した福井県の大飯原発の地下には、F6 という破碎帯が近くの活断層と一緒に連動して地表がずれるということも指摘されてますし、これだけじゃないですよ。石川県の志賀原発の原子炉建屋の直下にも活断層の存在が指摘されています。このように地震国である日本に原発を立地する場所はどこにも無いのではないのでしょうか。再処理施設さえそうですね。保管場所もどこにも無い。最終処分場もどこにも無い。これで原発を動かし続けるなんてことは到底許されません。

こうしてる中でも、これをお話してる中でもですよ、住み慣れた故郷を離れて帰ることもできず、暑くて狭い仮設住宅の中で、生きがいも仕事も奪われて過ごしてる方がたくさんいるんです。きょうの朝メールで、この会場に来るからといって託された思いです。再び原発事故が起これば、このように行き場の無い方が大勢生まれるのを分かっているながら、原発に依存し続けることは私には本当に理解できません。

「ほかにもたくさんリスクがある中、原発だけのリスクを問題にするのはおかしい」と言った方がほかの公聴会にいらっやいましたけれども、一瞬にして何十万人もの人の命が脅かされる。今まで育んできた生活、自由も奪われる。こんな不安にもおびえながらずっとこれから生きていかななくてはならない現実、原発が動いてる限り、この国のどこに住んでいても起き得る事実なんですよ。このようなことは福島で最後にしていただきたいと思ってます。地震による原発のリスクを最小化するということがここに書かれてましたけども、そうであれば現時点で全ての原発を廃炉にする決断をするべきであると私は考えます。

国家戦略室のシナリオについて少し意見を述べさせていただきます。まず、なぜ 2030 年の選択肢しかないのかということに疑問があります。2030 年というのは原発の 40 年間という運転制限。前は 30 年だったのが 40 年になってますけども、この 40 年の運転制限は全ての原発が迎える年だからであって、そこには「新規の原発の建設はあきらめるが、今ある原発を止める気は無い」という意図が表れてるんじゃないでしょうか。

もっと言えば、「動かせる原発を廃炉にしまえば、原発を廃炉にすると決めた途端に原発の資産価値が無くなり、電力会社が債務超過になる。そして経営が立ち行かなくなる恐れがある」。これはニュースでも報道されてますから、ご存じかと思います。こういうことから、電力会社を倒産させないために、国民の安全を無視してでも 2030 年までに原発を動かしたいということじゃないかということ、こういった意図が隠されたまま 2030 年の原発依存をみんなで考えましょうということは、果たして本当に国民的議論と言えるのでしょうか。

国政を預かる方が何よりも優先すべきなのは国民の生命であり、これを無視して一企業の存在を優先するなど言語道断です。だからといって、電力会社で働く方の生活、これを無視しろと言ってるわけでもありません。そこにも国民の生命という重い課題があるからです。そのため再生可能エネルギーへの転換などで、雇用や安全なエネルギーを確保していくといった視点でのシナリオの提示も国民的議論の場には必要なのではないのでしょうか。

あと 1 分ということですが、もうちょっとかかります。申し訳ありません。

先ほど省エネの家電の話も出ました。発電電力量は、どのシナリオを見ても 2010 年と比較してあまり変わらないじゃないですか。省エネ家電や照明機器を導入したら、もっともこの発電電力量は少なく済むんじゃないでしょうか。家庭での省エネルギーをやれば、原発依存にしようがゼロにしようが、この発電量は必要な量が減るはずなんです。LED 電球の価格は、3 年前 1 個 8000 円ぐらいしましたよね。でも、今は 800 円で売ってますよ。40 ワットの消費電力が 4 ワットのもの、これは 10 分の 1 の価格になって消費電力も 10 分の 1。計算してみました。ちょうど大飯原発の建設費が発表されて、本当はもっとかかっているんじゃないかなと思いますけども、それと同じ値段だけ使ってこの 800 円の電球を買って配れば、ちょうど発電量と同じだけ節電することができます。地デジの負担では、地デジを導入した時には国民に負担を押し付けたんですよね、まだ使えるテレビをやめましょうといって。だけど、省エネすると負担が増えるという理論が私には到底理解できません。

あと暖房にしてもそうですね。暖房って、そもそも熱エネルギーですよ。遠くの発電所で作った電気エネルギーを、わざわざ送電のロスをしてまで遠くから運んできて、また家庭のほうで電気を熱に変換する。こんなこともやめましょう。これが本当にこのシナリオに表現されてるんじゃないでしょうか。そういうふうには見えません。

それから太陽光発電の問題でもそうですが、地方では 1 軒で 300 坪ぐらいの広さの家

って結構あるんですよ。ですから全国の家庭の屋根の上に太陽光パネルを乗っけても、まだ電気が足りないよというのはちょっとおかしいんですよ。農地法の規制とかで遊休農地とかもありますけども、これが十分に活用できない現状、こういった規制も緩和する。それから屋根の上じゃなくても、庭にも設置できるようにする。こういったことで太陽光発電だって十分賄えるようになると思います。こういったことをぜひ考えて、ゼロシナリオということで国民への負担のデメリットばかり強調していますけども、そういったことをきちんと含めたシナリオの提示を改めてお願いしたいと思います。

そして、最後にこれだけ言いたいんですけども、今のような国が主体の意見公聴会では中立性が確保できないんです。原子力規制庁でも、技術的知見が必要だからといって、そのトップに今まで原子力を推進してきた中枢にいた方が就かれるようですね、トップのほうに。これにも問題があります。公正な第三者による機関をつくって、正しい情報を提供・共有することが不可欠なんです。そこに携わる有識者・専門家は、政府および原子力を推進している団体とは利害関係の無い中立な立場の人選をすることしか公正な議論はなし得ません。このような機関を設置して、国民的議論を十分に尽くす。最終的には、イタリアなどで行われた、先ほど否定されてた方もおりましたが、国民投票のような手段によって原発の廃炉と再生エネルギーへの転換を国民が直接選択できるようにすることを提起して、私の意見表明とさせていただきます。ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。1点補足いたしますが、実は市民団体とか住民の皆さんの主催するこうした会に、私たち、「来い」と言われると出向くというシステムを同時に行っておりますので、ぜひご検討いただければと思います。ありがとうございました。

では、続きまして24番の方をお願いします。

◎意見表明者 24

今回意見表明させていただきます双葉郡浪江町から福島市に避難しています0と申します。震災前は建設会社に勤務しておりました。どうぞよろしくお願いいたします。

シナリオ「環境に関する選択肢概要」を読みましたが、難しくてよく分かりませんでした。シナリオ、シナリオ、18年後の先は思い描いたとおりにならないからです。なので私のエネルギーを考える上でのさまざまな問題点、改善要望点をお話しさせていただきたいと思っています。

1点目は、環境温暖化の問題です。昨年発生した震災により、福島第一発電所の事故が起こり、原発の安全神話は無くなりました。原発はクリーンで安全な発電方式ではなく、汚染し危険な発電方式であるということが証明されました。今回の事故で学んだことは、原子力災害は広範囲で長期にわたり影響があるということと、廃炉まで考えた電力コスト、賠償を含め、多大な金額となり、国民の血税を削って支払うということです。あと原

子力発電で避難した方の尊い命も無くなっているということです。

今現在、一部の原子力発電所を除くと火力発電に頼る発電を続けていますが、CO₂の増加による温暖化を助長させる上、電気料の値上がりにつながっているということもあります。火力発電も災害に対して爆発炎上等のリスクはあります。化石燃料の枯渇というのも重要な問題です。再生可能エネルギーは今現在、発電能力が乏しく、貧弱なエネルギーであるというのは間違いありません。地球温暖化対策だけを考えたエネルギーとなりますと、原子力を稼働させながら再生可能エネルギーの拡充・拡大と蓄電技術の向上をさせ、化石燃料による火力発電を抑えることとなります。しかし、原子力発電は危険なエネルギーであるため、確実な安全対策・対応が確立され、地域住民の同意があり初めて稼働させることが前提となります。

国際会議で鳩山元首相が、「2020年、温室効果ガス25%、原子力発電所24基相当の削減」を発言していました。その当時は、クリーンで安全な原子力発電による温室効果ガスの提言を考えて発言したと思います。しかし、アメリカ、中国など大国はそれにも参加せず、日本は規制を強めていくだけ。そのことで日本が原発に依存するエネルギー政策を選択してしまったことを政府は責任を感じてほしいのです。

2点目は、使用済み核燃料と福島県内の汚染物質の処理問題です。原発を再稼働すれば使用済み燃料は発生し、増え続けるごみを安定的に処理しなければならないのです。私は、最終処分場が解決しなければ、2030年を待たずに全国の原子炉を停止してほしいくらいです。使用済み核燃料の処理問題は、国策として原子力を推進してきた政治の責任であり、エネルギー環境を国民に選択肢させるよりも、先に使用済み核燃料処理問題を確立されてからの選択肢だと思います。今回のシナリオでも「直接処理」とだけ記載されていました。政府はエネルギー選択肢を国民に選ばせたという既成事実をつくり、目の前の使用済み核燃料や汚染物質の責任を先延ばししているだけじゃいけないということを考えてください。

3点目は、エネルギーを規制する省庁、機関の問題です。今度、原子力規制庁を立ち上げ規制していくようですが、原子力規制庁の中がよく見えていません。また骨抜きにされ、しょせん責任の所在が分からないようなかたちだけの省庁にはならないでほしいのです。

そして残念なのが、各事故調の報告書が中途半端なかたちだったということです。福島第一発電所だけにスポットを当て調査・報告されていますが、福島第二原子力発電所も同じ沸騰水型の発電所です。地震、津波による被害調査をすることにより、原因究明や今後の事後活用にされると考えるからです。今現在も福島第二原子力発電所では事故処理作業をし、汚染水が漏れ出しているということなんで、ぜひ調査・報告してほしいです。

シナリオ5ページ、核燃料の再処理は、15シナリオから、高価で危険なMOX(モックス)燃料もあり得るとしています。これでは原発依存度を確実に下げるではなく、上げてし

まうのではないかと感じています。

9 ページ、10 ページのシミュレーションでは具体像としていますが、この内容は分かりづらと思います。今現在、一般家庭にパネル補助金が、何ワットで幾らまで国が補助して、それに対して今度はこういう各種をするという具体的な方法、蓄電方法にもっと具体的に突っ込んだ話、また休耕田や遺産分与、放棄地等、活用される土地を電気事業法や農地法の改正とか、縦割り行政を横のつながりで改善してやれることはもっとあるはずなのです。温室効果ガスをお金で買ってくるぐらいなら、そちらにお金を回してほしいです。

2020 年、これからの 18 年に再生可能エネルギーおよび蓄電技術が向上し、拡大・拡充することを期待して、「2020 年原発ゼロ」を選択します。各家庭の負担増は厳しいですが、厳しい選択をし、やれることを精いっぱい頑張っていくことが大事であり、目標に向かうことで次世代エネルギーの向上につながっていくことを期待します。

今、世界国々の再生可能エネルギーに方向転換している現在、再生可能エネルギー、蓄電技術は日本が世界をリードしていける大きなチャンスでもあるのです。「命」と「電気」、これから生まれてくる「命」、どちらが大切ですか。どう考えても「命」です。この事故を契機に、今後のエネルギー政策について大きな良い転換期になることを望み、終わらせてもらいたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では、25 番の方よろしく願いいたします。

◎意見表明者 25

25 番です。Hと申します。郡山市の市議会議員をしております。私は 3 月 11 日以降、大変な災害の中、市内を駆け巡り、そしてまた原発事故以降、目に見えない恐怖にさらされ、自らも被ばくしております。

政府が一番やらなければいけなかったことは、原発事故が起きた時に子どもたちの命をどう守っていくかということだと思いますが、福島県内においては、それが確実に実行されたとは言えません。

まだ測定されない中、本当に危ない子どもたちをアメリカでは 80 キロのほうに避難させましたけれども、そういった手は、日本では打てませんでした。そこでたくさんの被ばくにさらされ、そして放射線の防護に対してもきちんとした情報が与えられなかった。無駄な被ばくは強いられたと思っております。

では私の意見表明をいたします。私はゼロシナリオを求めます。再稼働は認めず、原発の即時廃炉の意見を表明いたします。原発は要りません。

3 月 11 日、大震災による原発事故によって、福島県民は健康に生きる権利をことごとく奪われてしまいました。そして日本中に、世界中に放射能汚染を広げ、世界の人々に、子どもたちに大きな迷惑を掛けた事実は日本人の一人として大変恥ずかしく、情け

なく思っております。

最も懸念することは、感受性の強い子どもたちへの影響です。健康に悪影響を及ぼす恐れのある放射性物質の拡散は、保護者たちを大きな恐怖と不安に陥れました。そして放射性物質による環境汚染は、子どもたちが健やかに遊び、育ち、学ぶ環境をことごとく奪いました。

郡山市においては、教室にクーラーはまだ設置されておられません。この厳しい環境の中で我慢を強いられております。政府による正確な情報、安全な食品を提供されず、不要な内部被ばく、外部被ばくを受けたのです。多くの命、財産、かけがえのない美しいふるさとを奪われ、苦悩を心の底から理解していただきたい。

特に原子力政策を推進してきた人々、政府、電力関係者の方々にです。年間100ミリシーベルトまで安全であるという政府関係者、学者の方々は、福島県から遠くにいないで、ぜひ福島県内に住み続けていただきたい。そして福島県民と共に、同じように低線量被ばくの中で飲食し、生活していただきたい。

原発放射性廃棄物は人類と共存できません。放射能の拡散は倫理上、許されないことです。ですから私は、原発や放射性廃棄物の海外輸出にも反対です。日本のみならず、世界中から原発をなくすこと、核の廃絶を強く求め、戦争のない平和な世界を築くことが私たち大人の使命であると考えます。

ゼロシナリオを求める理由。私は原子力政策への不信感を、どうしても払拭することができません。過去の政府の対応と電力会社の企業体質の問題、情報の隠蔽、事故の過小評価など、正しい情報提供と情報公開がなされなかったことです。

また、地震、事故が起きたとき、暴走を止めることができるのか疑問です。高い放射能数値の中、汚染水処理と、危険で過酷な作業を行う人が絶対必要ですが、果たしてそれがどのように確保されるのでしょうか。

原発事故に、経済損失は数十兆円という国家存亡に揺るがす規模です。国民への負担増を強いる原発は、経済的にも合いません。危険な原発や作業は過疎地住民に交付金で押し付け、本当に安全なら都会に建設すべきです。地方人とか、国民を差別分断してはなりません。原発は人権の問題でもあります。なぜ再稼働を急ぐのか、安全対策より結論ありきの電力会社温存の経済重視は理解できません。

2 つ目、東京電力福島第一原子力発電所の甚大な事故の受け止め方、認識が甘過ぎます。そもそも 4 つのプレート上にある日本列島は、地学的に見ても活断層が多い地震国です。原発を稼働させること自体、極めて危険です。いつ3.11 同様、またそれ以上の大地震が起きるか分かりません。

福島事故の経験から明らかのように、一度事故を起こせば、完全に収束されるまで長期間かかります。私が収束最後まで見届けることは極めて困難。完全収束まで 40 年を要するなら、60 歳の人には 100 歳になってしまいます。

福島事故の責任を一体誰が取ったのでしょうか。将来世代への大きな負の遺産は絶

対許されません。放射性廃棄物中間処理施設、最終処分地はいまだに示されておりません。原発に頼らないエネルギー政策への大転換に挑むことが重要です。

私は今年の 1 月末ですが、脱原発に戻ったドイツを訪問しております。省エネへの見込みは、省電力 1 割ではなく、3 割削減も可能です。地域分散型再生可能エネルギーの積極的導入、電力の自由化と発電電の分離など、システム改革をなぜ導入しないのでしょうか。管理に 10 万年必要な核燃料サイクル、再処理の余地を残してはいけません。

最後に毎週金曜日の夜、首相官邸前に集まっている数十万人もの国民の声を政府関係者は無視することはできません。原発要らない、大飯原発再稼働反対は、安全な生活と健康、エネルギーを求める国民の切実な声であり、願いです。

3.11 以後、国民の意識と行動は大きく変化しています。政府もまた国民に信頼される組織へと大きく変化することが重要です。大きな痛手を被った福島県に住む当事者だからこそ言える脱原発、ゼロシナリオが日本の希望の道であると断言いたします。

放射能におびえることのない再生可能エネルギーで、持続可能な社会を実現していきましょう。よろしくお願いいたします。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では 26 番の方、お願いします。

◎意見表明者 26

N と申します。福島市の渡利に住んでいます。渡利は花見山などで有名な自然の美しい地域です。しかしこの地域が放射線量の高い地域として有名にされてしまったことに、強い憤りと悔しさを感じています。

私の選択はゼロシナリオとします。しかし今回示されたゼロシナリオを支持しているわけではありません。私の意見は、原発ゼロを直ちに決断すべきだという意見です。原発事故を体験している者として、原発ゼロ以外の選択肢はあり得ないのです。

理由はさまざまありますが、最大の理由は、原発事故が取り返しのつかない事態をもたらしているからです。原発と命は共存できません。

私は 2 人の大学生を育てています。子どもたちは多くは語りませんが、生まれ育った福島にこのまま住んでいいのか、福島で結婚をし、子育てをしていっていいのか、そういう深いところで悩んでいます。喜ぶべき人生の節目において、未来を担う若者たちにこうした不安や苦しみを抱かせてしまっていること、こういう政治や社会でいいのかということが正面から問われていると思っています。

私の周りにも、子どもさんの寝顔を見ながら本当に福島で育てていいのか、涙を流すお父さん、お母さんがたくさんいらっしゃいます。子どもを守るためと自主避難をし、離れ離れに暮らす家族も限界を迎えています。

先日仮設住宅に行きました。すぐに避難しなければならなかったのに、救える命も救えなかったと自分を責め立てる方、避難先で夫を亡くされ、原発事故さえなければもつと長生きしていたはずと涙ぐむ方、荒れ地を開墾し、苦勞して子どもを育て、ようやく楽ができると思ったら、その全てを一瞬でなくされてしまった無念さを語る方など、たくさんの方に出会いました。

私はこうした話を聞くたびに、原発事故は人間が人間らしく生きることを否定するもの、一人一人の当たり前の生活、そして人生を破壊してしまうものだと強く感じています。人間の尊厳、人間らしく生きるということは、どんな理由があっても侵してはならないし、最優先で守られなければならないのではないのでしょうか。

こうした県民の思いや苦しみを背景に、福島県は原子力に依存しない脱原発の県土づくりを進める福島県復興計画を決定しました。また、福島県議会は、福島原発 10 基全ての廃炉を求める決議を全会一致で採択しています。脱原発、原発ゼロは福島県民の総意となっています。

そしてこの方向は、単に福島県の将来というだけではなく、原発事故による数々の犠牲の上に、福島県民が全国に発信をした日本の進むべき道と言ってもいいのではないかと思っています。

きょうは細野大臣もみえられています。福島県民の総意は明らかなんです。この福島県民の意志をぜひ重く受け止めていただいて、原発ゼロの決断を直ちに進めていただきたいと強く求めるものです。

最後に、私たちには今希望が必要です。安心して子供を産み育て、安心して暮らし、安心して働ける、そんな当たり前の生活を一日も早く取り戻すための希望です。その最低限の前提は、現在の福島原発事故を本当の意味で収束させること、そして原発をなくし、事故の不安から解放することだと思っています。

昨年 12 月の福島原発事故が終わったという野田首相の事故収束宣言、ことし 6 月の福島と同じような地震、津波が襲っても安全は確保されると断言した、これもまた野田首相の大飯原発再稼働発言、また、先の意見聴取会での福島原発事故で亡くなった人は一人もいなかったなどの発言の一つ一つが、私たち福島県民を深く傷つけています。希望を萎えさせています。それは福島県民の実態や思いと、全く懸け離れているからです。

福島原発事故の原因を人災と認め、安全神話と根本から決別し、原発ゼロの決断を行うことを重ねて求めて、意見表明にしたいと思います。ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では 27 番の方、お願いいたします。

◎意見表明者 27

郡山在住の1と申します。会社員をしております。私も皆さんと同じように原発ゼロシナリオを推進したいと思います。

理由は3つです。まず放射能は、現在の技術では制御できない。2つ目が事故後の福島での事故検証と、その対処方法が確立されていないにもかかわらず、原発をやはり動かすべきではない。そして、こういう事故が起きたからこそ、3つ目、再生可能エネルギーを国策として、脱原発国家および再生可能エネルギーの先進国を目指すという国家方針の下に、世界に向けて明確に打ち出して、世界をリードしていくような、そういう国家になってほしいという願いがあります。

まず、原発から放射能が漏れた場合、現在の技術では放射能を制御することができない。その中にわれわれ福島県民は住むことになっております。

最近新聞報道などで、子どもの尿検査からセシウムが検出される事例が出ているというのはご存じでしょうか。これに関して、国からまだ特にまとまった表現というのは、自主的検査に委ねているため、その情報をまとめて公表もされていないと思うんですが、例えば健康診断は、30キロ圏の避難区域の住人の方々および18歳以下の子ども36万人には限定して行っております。ただ、そこにも尿検査という項目は入っていないんです。尿検査は、尿からセシウムが検出されても絶対人体には影響がないということなんでしょうか。尿検査で子どもからセシウムが検出されている親は心配で、検出されてから一時的に避難をしたりだとか、そういうことを今繰り返しているのが現状です。

今後とも将来にわたって、その検査を国としては実施していき、もしものときの早期発見につながるためということで、検査を18歳未満の子どもに関してはずっと実施していくという方向でやっていますが、30キロ圏の避難区域よりも線量の高い、われわれの住んでいる福島市だとか郡山市、二本松、そういう地域に関してもしっかりと、18歳未満の子ども以外に関しても検査をするべきではないかと思えます。

そして今、その高い線量の地域で住んでいる親たちが不安を抱えて生活している、そのためにどういうふうに助成をしていくのかということ数を数々、子どもを中心に考えてという話がありましたが、それを真剣に考えていただきたいと思えます。

それは、現在学校や公園、役所、駅などで、主に線量計をやっと設置していただいて、線量が随時分かるようになりました。ただ、私の住んでいる郡山市の近くの公園では1.0マイクロシーベルトある公園があります。そこで普通にお子さんが砂遊びなり、泥遊びをしています。

しかもその公園の横の側溝ですね、そちらのほうを測ったら、どなたかの発言もありましたけれども、100マイクロシーベルトあった。そこには12万ベクレルのセシウムが検出されたという調査結果も、あるところから聞きました。なぜ福島県のそういう側溝だとか、子どもがちょっと手を付けるような、そういうところの検査をしっかりと公表してくれないのかなと思えます。

また、全国でデモをこれだけ行っているにもかかわらず、正式な政府のコメントというの

をあまり聞いたことがないんですね。ですからそれが、われわれ脱原発を掲げる福島県民に対しての不信感につながっていると私は思います。

大飯原発の再稼働に関してですけれども、再稼働はしたものの、防災基準に関しては、原子力規制委員会ができてから、その案に合わせて作成するということになっています。ということは、われわれの福島県で起きたことの、避難をせざるを得なかったこの事例、教訓を活かせず、まだおおい町役場では、そこまでしっかりとした防災対策ができていないということです。それをせずに原子力発電所を再稼働させたということは、今この時点で災害があった場合に、どのようにその地区 100 キロ圏の人たちは避難をしていいのか。

しかも役場の人たちは、SPEEDI の風による放射線の拡散予測も知らないと言ってました。まだ見ていないと。そういうことを、裏付けをしっかりとって、防災基準をしっかりと決めて再稼働するのがまず筋であって。

ただ、やはりわれわれ福島県の問題が解決するまで、ちゃんとした原因、除染方法でしっかりとした、子どもが安心した生活ができる福島県になるまで、再稼働はするべきではないと思います。

時間もないのでこれぐらいに意見をさせていただきますが、隣の方も言うておりましたけれども、福島県として、脱原発という方針を先日正式に決定いたしました。ですから国としても、先ほど言ったように再生可能エネルギーで安全でクリーンな発電能力を高め、安心、安全な国、脱原発をしっかりと宣言して、まず再生可能エネルギーに賛同してくれるような企業を集めて、そういう方々とじっくり話し合うべきで、それから研究開発、そして代替エネルギー、再生可能エネルギーをどのように設置していったって需要パーセンテージを上げていくのかというのを、プロジェクトとして話し合っていく機会をつくる必要があるんじゃないでしょうか。

ぜひ脱原発というのをスローガンに日本国として挙げていただいて、福島県はクリーンエネルギーのモデルになる県として、今後日本をリードしていけたらいいなと思います。以上で表明を終わります。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では 28 番の方、お願いいたします。

◎意見表明者 28

相馬市から来ました。この場で意見を述べさせていただく機会をいただきありがとうございます。

まず原子力発電によって、福島は数え切れないほどの甚大な被害を受けています。まず先祖代々受け継いできた土地、豊かな自然、そこからの恵みの数々、特に相馬のおいしい魚、震災後それらはすべて失われました。日々の食事による内部被ばくや外部被ばくにおびえた生活を余儀なくされています。基本的な普通の田舎の暮らしができません

ん。特に田舎の暮らしがそんなに好きなわけではないですが、たまに都会にも遊びに行きます。

原発周辺の土地はいまだに戻ることができず、そこに暮らしていた人々は、仮設住宅、県内外等、避難生活を余儀なくされているのが現実です。チェルノブイリを見ても明らかのように、飯館村と同じぐらいの汚染地域には25年たった今も住むことができません。本当に除染をして住める、あの山いっぱいのところに住めるというのであれば、政府の方々はじめ東電の人たち、住んでほしいと思います。

この人々の生活を脅かす原子力発電はすぐにやめてほしいです。政府はじめ電力関係者は想定外の津波による被害でこのような事故が起こったと再三にわたって言っております。津波対策をすれば大丈夫というそを振りまき、安全対策も不十分なまま、大飯原発の再稼働に踏み切ってしまいましたよね。もうあぜんとしてしまいます。どれほど脳みそがメルトダウンしているのでしょうか。

原発をすべて止めたからといって、今まで生み出された放射性廃棄物は膨大な量です。そんなこと分かっています。ですが、もうやめにしましょう。プルトニウムなどは無力化するのに10万年や100万年といった長い年月がかかると言われています。100万年後の人類にそんなごみを残していいのでしょうか。全く自分に責任がないと言っているわけではありませんが、やはりやめたほうがいいと思います。始めた当初は、そのうち処理方法が解明するだろうという甘い見通しのもとに、いわゆるトイレのないマンション、その原発を大量に作ってきたわけです。地下300メートルに高レベル放射性廃棄物を地層処理するという方法も日本学術学会、いわゆる学者の政府みたいなものですけども、その方たちの発表では、地震の多い日本で、今回の震災も踏まえると、無理だという結論に達しています。

さらに、原発が一番コストがかからないというそはもうばれています。だまされません。立命館大学の島教授が証明されています。プルトニウムは、原発で使われる前にウランを採掘し、輸出し、それを濃縮して使えるようにし、使用後は長年にわたって管理しなければいけない危険なものです。そんなところで作業をする人たちは被ばくによって人権を脅かされています。さらに、事故が起こればこれだけ莫大な賠償費用がかかっているんですよ。100万キロワットの原発は、3分の1は電気を生み出すけれども、3分の2は海水を暖めて、ただ捨てているだけですよね。皆さんそんなことはご存じのはずです。

揚水発電もご存じですか。私も原発事故があって勉強したんですけども、夜中に発電所は止められないので、その無駄な電気を使って、水をダムの上に揚げるんですよ。で、日中必要なときに流す。それで発電している。これ、実際計算してみると、電気を使っているらしいですね。発電ではないらしいです。ガスや石炭のほうがどれだけ安いか、もうそんなのみんなも知ってるぜ。

さらに、ドイツでは、この震災により原発の危険性を理解して、すべての原発の停止を決定していますよね。日本はまだ、福島第一が収束もしていないのに、燃料の今の状態

を把握しないで冷温停止状態？ 笑っちゃいますよね。冷温停止状態って何ですか。スリーマイルでもそうです。7年後に原子炉の中の状態が分かっているといいます。中ではもうメルトスルーして、福島第一はメルトスルーしてメルトアウトしちゃっていますよ。そんなのみなさん分かっていると思います。

日本というのはどうして間違いに気付いても、「ごめんなさい。間違っていました」って言えない社会なんでしょう。ドイツでは、太陽光発電で20基分も発電しちゃってるって知っていますか。こんなことも日本のメディアは大々的に取り上げないし、まあ電力会社のお金が動いているからそんなに大っぴらに言えないのかもしれませんが、まあ全部が全部電力マネーで動いているというわけでもないかと思いますが、やはり人間としての尊厳、人としての誇り、そういったことを期待したいと思います。今こそやっぱり変わるべきではないでしょうか。とにかくこれ以上原発に頼る発電方法はやめにして、クリーンなエネルギーを作っていくっていただきたいと思います。

すみません、オーバーしていますが、先ほど副読本の話も出ましたが、原発後に副読本が出版されております。教育現場に配布されていると思うんですが、細野大臣はご存じでしょうか。中身はひどいものです。福島の現実なんて全く書いておりません。放射能の測り方？ 遠ざかれば安全？ ばかじゃないですか。周りにいっぱいあるんですよ。どうやって避けるんですか、教えてくださいよ。私の友人を含めて、福大の有志の方が原発に関する副読本を作っています。興味のある方は見ていただければと思います。

長くなりましたが、これで意見表明を終わりにしたいと思います。2030年を待たずに、私のレジュメには書いてありませんが、即刻原発を止めて廃炉にさせていただきたいと思えます。ご清聴ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。

◎意見表明者 27

こんなに遅くなると思わなかったので、ちょっと用事がありまして、本当に最後まで聞けなくて申し訳ないですけど、ちょっと途中で退席させていただきます。

◎司会者(下村審議官)

申し訳ございません。進行が下手で申し訳ございません。

◎意見表明者 27

これからも皆さん頑張りましょう。よろしくお願いします。

◎司会者(下村審議官)

では、29 番の方、お願いいたします。

◎意見表明者 29

皆さん、こんにちは。Jと申します。私は原発から70キロぐらい離れた須賀川市の西部のほうに居住しております、居住地域は今なお0.7マイクロシーベルト前後です。また私は郡山市で働いておるんですけども、その建物の周辺は1マイクロシーベルト前後、表面汚染サーベイメータで量ると、10万ベクレルとか50万ベクレルとかというホットスポットが多数存在しています。福島県は東京から来られた方、見て分かるように、大変自然の美しいところで、緑の山河はそのままなわけですけども、その空の下では非常に厳しい状態がずっと続いているということをまずご理解いただきたいと思います。

私の友人で、森の案内人という、退職されて、子どもたちを自然に触れさせ親しませ学ばせる、そういうボランティア活動をされていた方がいらっしゃいましたけれども、この1年以上そういうこともできなくなりました。また、私の母はずっと農業をしております、本当にそれだけが、おいしい作物を作ることだけを生きがいにしてずっと来たんですけども、しかし、「作っても、孫やひ孫は食べてくれないんだべな」、そう言いながらも畑を耕しています。そういうふうに、皆さん悲しくて悔しい思いで生活をしています。もったもったひどい状況に置かれている方がたくさんいるだろうと思います。しかし、それなのに、原発が再稼働される、あるいは、きょうの会議のように、15%とか25%とかいう数字が出てくる。一体これはどういうことなんだろう。私は本当に怒りを腹の中で膨らませざるを得ません。

私は福島原発告訴団というものに加わっております。皆さんもご存じのように、この事故を起こした東京電力の幹部や原子力村の方々、政府の方々、誰一人、責任を取っておりません。そればかりか、東電の幹部に至っては、退職金をもらった上に何と天下りまでしているというではありませんか。私は、こういうふうな…この無責任体制を持続させて、どんなことをやっても許される、そしてまた元に戻せばいいんだというふうな動きをずっと継続してきたのではないかと考えています。

私は、原告団に加わって、是非ともこの事故の責任者たちが一日も早く起訴されて厳罰に処せられるべきだと思います。そうでない限り、何度でも何度でもこういうことが繰り返されるのではないかと私は強く思いますので、何とか頑張って、原告団、現在のところ1324名ですけども、起訴を実現するべく奮闘したいと考えております。

もう1分前になりました。多くの方が触れられておりますので、簡単に私が、ゼロシナリオ、しかも2030年までではなくて、可及的速やかに原発を廃止すべきだということについて述べたいと思います。

一つは、今も言いましたけれども、福島原発の事故の現実を直視すれば、それ以外の選択などあるかということです。こんなことになっていて、誰がもっと稼働して、社会の安全をかたち作るなんていうことを言えるのかということです。事故は収束していませんよね。廃炉まで40年以上かかると言われています。いや、40年では済まないかとも思います

ね。その間どんな事態があるかも分かりませんよ。我々はもつとつと遠くに逃げなければならぬかもしれない。まず、この現実を直視すべきだと思うんです。

二つ目は、これも多くの方が述べられましたけども、処分方法が決まっていない使用済み核燃料、核廃棄物をこれ以上増やしてはならないということです。どこにも持っていきようがないでしょう。これは、原発、もう既に1万4000トンぐらいたまっているといいますけれども、どこにも持っていきようがないです。これは本当に歴史的な過ちとして我々は総括するしかないと思います。そしてまた、放出された放射性物質ですね。我々の身の回りにあるところがたくさんありますけども、これも処分、どこに持っていくのか、決まっています。みんなうちの、家の庭に埋めたり、学校の校庭に埋めたり、公園に埋めたりしているんです。行き場がないんですね。こういうものを増やしてはならない。その点で、原発を稼働すれば、その原発内に貯蔵しておかなければなりませんし、事故が起きれば私たちの生活の環境の周りに置いていくしかないんです。こういうことをやってはいけません。これが二つ目です。

三つ目は、原発作業員の被ばくの問題です。原発、今、収束作業に当たっていらっしゃる方、3000人ぐらいいらっしゃるということですが、本当にありがたい話です。この人たちの被ばく量を本当に低くしていく、このことが今求められていると思います。ありとあらゆる技術をもって、安全措置を取るべきだと思います。ところが、鉛のカバーで線量を下げたりしているというではありませんか。全く許しがたいことです。そしてまた、この被ばく労働というものを少なくしていくためには、もはやこれ以上原発を稼働してはいけませんということなんです。この作業員の方たちとお話する機会がありましたけども、この方たちが、その場である人が「自分の息子にはそういう作業はさせたくないな」と言ったときに、「いや、ちょっと待ってください。それはやっぱり差別意識につながるんじゃないですか。もうちょっと工夫した表現で言ってください」と言ったことが私の印象に強く残っています。本当、そうだと思います。誰かがやらなければならないことをやっている。そういう方たちがいるわけですから、この人たちの安全対策を十分になすことが今一番求められると思いますし、これ以上被ばくを増やさないためには、原発をなくしていく、ゼロにしていく以外方法はないと思います。

以上、私の意見といたします。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。それでは、お待たせいたしました。30番の方、お願いします。

◎意見表明者 30

やっと参りました。伊達市に住んでおりますKと申します。本当にこの会場に来て、今の本当の正直な思いは4時間ちょっと長かったです。この自分の順番が来るのが本当に長かったというのが正直な思いです。本当に福島原発が起きたから多くの人に発言して

ほしいということで本当にこの場を開いていただいた 30 人もの方の人数の方にこういった意見を話す場をというところでは聞こえはいいかもしれませんが、やっぱりもつと地元に行って多くの方の話を聞いてほしいと思うのが私は率直な気持ちです。特に、この時間、もう 7 時近くなりますと、特にここで一番話したいと思うのは子を持つ親だと思えます。私もことし中学生になった娘を持つ親です。この時間にこういう場所でしゃべるといのは本当に困難だと思えます。

特に、きょうも 30 人のうち女性は 9 人ということで、世の中に半数は女性がいるはずなのに、3 分の 1 にもならない女性しか発言する機会がありませんでした。そういう部分では、この日本全体のこれからの社会を考えると、男女共同参画ということ政府も立派におっしゃっているかと思えますけれども、女性が本当にそういう意味では政策などの立案及び決定の場できちんと意思表示ができる場というのを多くの場面で持っていたきたいということ一番初めに申し上げたいと思えます。そういったものを政府としても 1999 年に男女共同参画基本法という立派な法律の中でそのことをきちんとうたっているわけですから、そういう部分では、きちんとして女性が発言できる場、そして本当に思いを語れる場、声を聞いてほしいという場を多く作っていただきたいということ先にお申し上げたいと思えます。

私も、皆さんが多くを語ってききましたけれども、ゼロシナリオを基本的には支持する立場で、私も早急にこの原発というのはなくしていただきたいという立場でお話をしたいと思えます。今、私申し上げましたように、伊達市から来ました。伊達市というのは献上桃でも有名なように、人も泣いていますけれども、果物も泣いています。特に、私がこの春に本当に悲しかったのは柿の木です。柿の木って、緑とごつごつした原木が本当に私好きなんですけれども、この春には全部真っ白になったんですね。本当にそういう意味では、人も泣いているけれども、食物も自然も泣いているというのがこの原発事故で侵された私たちの福島の現状ではなかったのでしょうか。そういった中で、本当にこの昨年 12 月 16 日に野田総理が出した収束宣言というものは怒りに増してまさるものは何者ではないと思っています。

私は子を持つ親として、娘はことし中学生に上がりましたけれども、去年 1 年間、原発事故以来、本当に一番楽しみにしていた 6 年生という時間を返してほしいと思えます。6 年に上がった瞬間から、外で遊ぶこと、それから友達と色々な思い出を作ること、奪われたこの 1 年間を返してほしい、本当に心からそう思えます。この収束宣言の中では、本当に内部を正確に把握できないということは皆さんが本当におっしゃっていることであると思えますし、本当に今の状況というのは原発事故というのは津波だけが原因だったのか、それとも地震の影響は本当になかったのかということは分からない状況というのは本当におかしいと思えます。いまだに内部の映像を隠そうとしている東電、いつまでも隠し続けるというスタンスが私は許せません。

それから、名古屋で開催された意見聴取会の話も先ほどからされています。原発事故

で亡くなった方はいない、身体上及ぼす影響はないといった発言のことも先ほどから皆さんたくさんお話しされていると思います。ことし春にNHKで、1人で移動することができず、避難できずにそのまま餓死したという報道がされたときに、本当に私はショックを受けました。その人は本当に原発事故の被害者ではなかったのでしょうかということをおの映像を見るだけで私たちはすべてを知っているということを改めて言いたいと思います。

それから、将来への展望を失い自殺をした農家や自営業者の方も本当に被害者ではないのでしょうか。SPEEDIの公開の遅れを含めて、さまざまな情報や事実を本当に国や東電がひた隠しにひた隠しにしながら、少しずつ少しずつ後出しジャンケンのように出していることを私たちが安心を実感するということはこの原発事故では本当に言えないというのが福島の現状だと思います。

4号機の使用済み核燃料の抜き取り作業がこれから始まろうとしている中で、この燃料の回収についても皆さんがたくさん申し上げておられますけれども、本当に溶け出した燃料を取り出せても、本当にこれを地下深くに埋めるほかには保管方法がないというのが今の状況ではないのでしょうか。地中に埋めて数億年で半減期を迎えるのを待つ以外に本当に次の世代に負の遺産を残すという原発は私は要りません。特に、この原発事故の最終処理、それからこの放射能汚染で、30年、40年とかかる負担を子どもたちに残すということの責任をどのように考えていくのか。彼ら、彼女らが選んだ未来では決してありません。私たち大人が作り出すこれからの未来を子どもたちが安心して手を取って生きていける社会にするために、本当に今このエネルギー・環境の選択というのが問われているんだと思います。過去は本当に戻ってきません。娘の6年生の生活はもう戻ってこないんです。こういった思いを本当に全国の子どもたちにこういう思いをさせていいのでしょうか。

もう一つ、再生可能エネルギーの中で、先ほどから火力電力の話もされていますけれども、化石エネルギーにも限りがあると言われてはいますけれども、ウランだって鉱物じゃないですか。これだって限りがあると思うんです。これから原発維持をしようとするのであれば、このウランだって限りがあるのに、いつかなくなるウランを待って原発を維持していくことそのものがおかしいと私は考えます。

これからの生活についても、私たちの生活も我慢を強いるだけではなくて、いろんな規制のあり方や24時間型の社会の見直しなど、私たちの暮らし方、環境すべての産業のあり方を見直す中でエネルギーのあり方というのは考えることができると思います。人に優しく、地球に優しく生きることが次の世代に胸を張って手を渡すということが私たちの大人の責任と権利だと思いますので、そこのところを最後に述べさせてもらいまして終わりにしたいと思います。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。30番の方、そしてご来場の皆様、4時間20分になってしまっ

たのは時間管理の責任者は私、司会でございますので、まずお詫び申し上げます。本当に申し訳ございません。平日の7時前に子を持つ母親が来れますかという、全くおっしゃるとおりだと思います。申し訳ございません。

そう言いながらも一つのコーナーをしなければならないのは大変ジレンマではありますが、やはり申し訳ございません、もうしばらくお時間をいただいて、今の皆様のお話の中で、もう一言という方、挙手をお願いできますでしょうか。はい、ではまたこちらから、今とは逆順でお願いします。25番の方、よろしくお願いします。

◎意見表明者 25

すみません、ちょっとうつ病で声が出にくいので、申し訳ございません。私の要望なんです、原子力規制庁をチェックする機関を設けてほしいということです。原子力を規制強化すべく、権限責任を持ち、その規制する責任の判断を処理できる独立した組織を設けて、責任の所在のあり方を明確にしてほしいのです。

2番目、私事になりますが、私の父は避難先の病院で亡くなりました。病院に置き去りになり、被ばくし、持病で治療のできる病院がなく、福島から東京に行き、東京で亡くなりました。放射能を除けば、水、電気があれば継続的な治療等ができたと思います。そのことを踏まえて考えると、この地域を賄える電力、国のもとに再生可能エネルギーによる発電をできれば、生活は維持できるということです。地産地消での生活再生可能エネルギーを国の手厚い補助により行ってもらえることを望みます。

あと原発の決死隊で私の知り合いの若い人たちが行きました。かなり浴びました。ひどい線量を浴びた人がいます。そういうことも忘れないでほしいんです。その原子力社員はボーナスをもらったと言っていますが、原子力協会という若い人たちは社員じゃなくて、ボーナスがもらえてないんです。それで過酷な労働をさせられているという事実も忘れてはならないのです。それを忘れないでください。以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。続いて、挙手されていた24番の方、よろしいですか。23番の方。

◎意見表明者 22

22番の……。

◎司会者(下村審議官)

ごめんなさい。

◎意見表明者 22

22 番の N でございます。先ほどちょっとはしよりましたので、少し追加で申し上げたいと思います。再生エネルギーの比率をなるべく高くしていくというためには、やはりそう一朝一夕に再生エネルギーの発電量は伸びないと思いますので、それについてわれわれが使う電力量を、いかに減らせるかというのは一つの大きなポイントになるんじゃないかと思うんです。

そういう面では、一つは、中小企業さんに向けての省エネ機器の購入に対する資金援助、これを十二分にお考えいただきたいと思います。私は中小企業さんの製造業の方からいろいろご相談を受けて仕事をやったんですが、残念ながらお金が無くて、省エネ機器に替えたくても替えられないんですよね。みすみす余分な電気代を使っているとかね、要するにいろんな生産形態が変更になっていて、今過大な設備を使っているんですが、それをほんとの工場の容量に合ったかたちに替えられないというのは非常に多いんです。そういう意味では、ぜひ中小企業さん、あるいは一般家庭の省エネ機器の購入に対する資金援助、これを十分にお考えいただければと思います。

それから、あと一つは、われわれはいろんなことを申し上げたのですが、やはりわれわれの生活様式をどういうふうに変えていくかと、非常に大きなポイントになるかと思うんです。それには残念ながら今みたいな便利すぎる生活は変えなきゃいかんと思うんです。そこに国民の覚悟がどのくらいあるかということなんです。ありがとうございます。

それが無いと、絵に描いた餅になりますので、ぜひ国民が一体となってそういう覚悟を持ってエネルギー使用の削減に努めていくということで、みんなと一緒に進めていければと思います。ありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。では、21 番の方。

◎意見表明者 21

21 番 U といいますけども、私は避難者の立場として言いたいです。これとちょっとずれるかもしれませんが。

私たちは国の命令で避難したんです。これは間違いないと思うんですけども、なぜ国がもっと早く動いてくれないのですか。あれ浪江、双葉、大熊、富岡、「仮の町構想」を言っても、国ははっきり言って動きが遅いです。われわれを仮設住宅で殺すんですか。私の田舎は、浪江では 78 坪のうちなんですよ。私は 6 坪です。私の漬物小屋ですよ、浪江で。なんでそこで暮らさなきゃならないんですか。これは災害救助法というのは、私たちは人災だとほんとは入れないはずなんです。東電が前に準じたうちを与えるのが筋だと思うんですけど、東電、国ははっきり言ってその対応を早急にしてほしいです。なんで今ごろ仮設住宅の改善が必要、何が欲しいですかって、今これを言ってるんですか。もう 1 年 5 カ月以上たっているのに、なんで仮設住宅を改善しなきゃならないんですか。こうな

ったら復興住宅を早く進めてください。

これを解決してこそ、次に稼働とか言うべきだと思うんですよ。原子炉は 40 年かかって、われわれが浪江とか、あるいは双葉に帰るまでは、国の責任でちゃんと復興住宅を建てて、住ませるようにするのが先だと思うんですよ。もっと早く動いてください。よろしくお願いします。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。ほかに挙手をされていた……、もうよろしいですか。じゃあ、こっちの順番でまいります。お願いします。

◎意見表明者

私どもはここで意見を言わせていただいています。そして、その後ろには同じような意見を持った方がたくさんいるんですね。それで、私たちは一体意見を言って聞いてもらっているのは、きょう誰なんだろうということを言いたいんです。細野さんは有名だから分かります。でも、そのほかの方、どんな方が聞いてくださっているのか。そして、こっちを見るのではなくて、向こうを見てみんなの意見を代表して言っているんだということからすると、向こうを見てちゃんと名前を言って意見を聞いてもらいたかったです。そういった意見公聴会をこれから開いてください。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。16 番の方。

◎意見表明者 16

きょう行われたこの福島県の市民の意見の発表が、ほとんど原子力発電は要らないという意見ですね。ところが、他県に行きますと温度差がありまして、かなり意見が分かれると思うんです。しかし、現状が分かれば、かなり意見が 0%になるということになると思うんですけども、福島県のこの意見をいかに政府のほうで取り組んでくれるかです。私は 100%取り組んでもらいたいと思うんです。

そして、これから行われるエネルギー政策なんですけども、エネルギー政策の進行、決定とかを公平に開示していただきたいと思うんです。かなり一般市民は政府に対して不信感を持っています。これは事実だと思うんです。ですから、政策過程、決定、それを逐次公表してもらいたいと思います。

(会場の参加者からの声)

◎意見表明者 16

そうです。というのは、私が不信感を抱いているということは、原発のメルトダウンをしたというのが3月14日なんです。政府も何も誰も発表していなかったんです。どうして私がかかったかという、ある確実な情報筋から入ったんです。いや、これ本当なんです。

そのために私は15日に、さっき発表しましたけども、県外に避難しました。長野県に避難したのですが、朝8時に出発して、着いたのが12時でした。途中ガソリンを入れる車の行列、避難する車の団体の行列で大変な状態でした。そういうことがありました。結局、情報を開示しないために、一般県民、福島県民、全国県民が政府に対して非常に不安を持っています。そのために情報開示はぜひ逐次していただきたいと思います。以上です。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。今いろいろなお声をいただきましたが、細野大臣、いかがでしょうか。またお話しいただけますでしょうか。お願いします。

◎細野大臣

まず、福島県民の皆さんに政府を代表して、改めまして心よりお詫びを申し上げます。ほんとに申し訳ございませんでした。

今、30人の方からお話を伺いまして、昨年原発の事故が福島県民の皆さんの生活を奪ったこと、そして亡くなった方、命を奪ったこと、その責任を改めてほんとに痛感をいたしました。お話を伺って、そうしたものを取り戻すことは極めて困難だと思います。ただ、その中であって、今も健康不安を抱えながら生活しておられる方がいらっしゃいます。まだまだ政府の対応が至らない点がたくさんございます。ただ、その中で、私が健康管理の問題について、9月からは政府の側の責任者になりますので、きょう伺ったお話は絶対に忘れることなく、全力を尽くしていくことをお約束を申し上げたいと思います。

賠償の問題や住宅の問題やまた除染の問題など、多くのご指摘がございました。私が政府の代表でこうしてしゃべらせていただいておりますが、きょうは各省から責任者が来ております。全員きょうは各省から責任者が来るよということ、しっかりとメモを取りながら真剣に聞かせていただきました。そのことは、これは私は非常に大きなことであつたと、そのように思っております。

多くの皆さんからお話がございました。東京電力管内の生活をしているそういうわれわれが、福島に負担を押しつけてしまっていること、さらに今不安を抱えながら生活をされている実情が、東京に住んでいるわれわれに分かるのかということ、極めて倫理的なそしてほんとに正当な皆さんのお話だろうというふうに感じました。

その矛盾を今すぐに解決することはできませんけれども、ほんとにきょう皆さんからお話を伺って、その福島の皆さんにいかに寄り添うことができるか、どうすれば皆さんのお気持ちをほんとに受け止めることができるのか、きょうはそのスタートに改めてしなければなら

ないと感じております。

きょうは皆さんにエネルギーの問題について、政府としての方向性をお話をするのは、今意見聴取会を行っている最中ですので、そのことはできません。ただ、きょう改めて皆さんからお話を伺って、一つ絶対にやらなければならないと思ったことがございます。それは再生可能エネルギーを国家プロジェクトとしてしっかりとまず育てていく。これまで原子力発電に確かに国は多くの力を投じ金を掛けてまいりました。それを上回るそれぐらいの力を入れて、そういう力を入れて、再生可能エネルギーをこれから育てていかなければならないと改めて感じました。

(会場の参加者からの声:約束してよ)

はい、そのことはお約束申し上げます。そして、その再生可能エネルギーを育てていく場所といたしまして、私はきょう改めて多くの皆さんからこの福島を再生可能エネルギーの拠点にしようではないかという、ほんとに前向きなご提案をいただいたことを絶対に忘れません。

福島は私は本当に素晴らしい可能性に富んだ場所だと思っています。今、それが大きく傷ついていることは政府の、これはほんとに責任であります。これから会津、中通り、そして浜通り、それぞれにエネルギーについてのさまざまな取り組みを地元でしていただいています。そうした皆さんの取り組みを、政府として全力でバックアップして、それが少しでも福島の再生につながるよう努力することを約束をさせていただきます。

私は野田政権の閣僚でございますが、福島の問題というのは野田政権かどうかとか、民主党かどうかとか、私はそういう問題をはるかに超えた重大な問題であると思っています。政治に携わる人間といたしまして、福島とできる限り、ほんとに皆さんと一緒にやれることが何かということ、政治家である限りこれからも追求をして歩んでまいりたいと思っております。

きょうは本当に30名という方に大変なご準備をしていただき、ご発言をいただきました。心より感謝を申し上げます。それと同時に、最後までこうして会に参加をしていただいた皆さんにも感謝を申し上げます。今お話をされている方々、本来は全ての皆さんからお話を聞くべきところでもありますけれども、これは大変申し訳ございませんけれども、時間の制約があつてアンケートというかたちになることをお詫びを申し上げます。

4時間を超える時間ではありましたが、私は福島の皆さんの思いを考えれば、短すぎるぐらいの時間であつたと思っています。ほんとにきょう貴重な時間をいただいたことに感謝を申し上げ、そしてこの会議を開いていただいた、ご協力いただいたこと、皆さんのご発言、このことだけは決して忘れずに、これからの日本のエネルギー政策を考えていくことをお約束申し上げます、私の結びの挨拶とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。

◎司会者(下村審議官)

ありがとうございました。いきなり独断ですみませんが、政府関係の方は皆さんちよつとご起立いただいて、皆さんのほうを向き直っていただけますか。私は本日司会進行を務めさせていただきました内閣広報室の下村健一と申します。本当に全部受け止めてこれから何ができるか、これから一生懸命政府一同取り組んでまいりますので、本当にきょうは貴重なお時間、いろいろなお声をお聞かせいただきまして、どうもありがとうございました。本当にありがとうございました。

では、以上を持ちましてきょうの意見聴取会を終了させていただきます。本当にありがとうございました。

◎司会者

皆さま、長いお時間、長時間にわたりましてありがとうございました。以上を持ちまして「エネルギー・環境の選択肢に関する福島県民の意見を聞く会」、終了とさせていただきます。長時間にわたりまして、ありがとうございました。お帰りの際には、ご入場の際にお渡ししましたアンケートをご記入の上、出口にて係の者にお渡しいただきますようご協力をお願いいたします。なお、お忘れ物が届いております。受付に取りにきてください。それでは、お気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。